現行(令和3年版)	改定案(令和4年版)
土木工事施工管理基準	土木工事施工管理基準
(3) 3次元データによる出来形管理 土工において、3次元データを用いた出来形管理を行う場合は、管理基準のほか、 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工編 多点計測技術(面管理の場合)」または「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工編 計測技術(断面管理の場合)」の規定によるものとする。 また、舗装工において、3次元データを用いた出来形管理を行う場合は、管理基準のほか、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 多点計測技術(面管理の場合)」または「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 計測技術(断面管理の場合)」の規定によるものとする。 河川浚渫工においては、3次元データを用いた出来形管理を行う場合は、管理基準のほか、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)河川浚渫工編」の規定によるものとする。	

						野	見行 (~	令和3年	丰版)									改	定案((令和4	4年版)			
											単位: =		I								I		単位	
1 共通編	章	3 2 1 1		据削工		測 定 項 目 基準高▽ 法長ℓ ℓ≥5m		50	測定基準 施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要傾(案)土工編計測技術(断面管理の場合)」の規定により管理を行う場合は、設計図書の測点毎。基準高は掘削部の両端で測定。	測定箇所	摘 要	1 共通編	章 2 土 工	3河川土工・海岸土工・砂防土	1	据削工	測 定 基準記 法長0		規 格 士: -2 法長-	50	測定基準 施工延長40m(測点間隔25mの場合50m)につき1ヶ所、延長40m(また50m)以下のものは1施工箇所につ2ヶ所。ただし、「3次元計測技術を用いた来形管理要領(案)」の規定により点による管理を行う場合は、設計区の測点毎。基準高は、掘削部の両端測定。	はき出測書	摘 要 1-2-3-2	<u> </u>
1 共通編	2 土工 消消。 化砂土工	Ţ Ţ Į	2	掘削工(面管理の場合)		平場 標高較差 面 水平または 限含む) 標高較差	平均值 ±50 ±70		情(面管理の場合)」に基づき出来形管理を面管理で実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度	・ 天端部の計測点 ・ 法面部の計測点 ・ 満密度 ・ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一		1共通編	2 土工工	河	2	掘削工(面管理の場合)	平場 法面 (小段含む)	標高較差水平または標高較差	平均值 ±50 ±70	個々の 計測値 ±150 ±160	1. 3次元データによる出来形管活法のです。 3次元データによる出来形管理を開(案)」に基づき、人物できまれては、大きないでは、大きないからないでは、大きないは、大きないは、大きないは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	来管本を実 ・天端節の計測点 ・法価節の計測点 ・法価節の計測点 ・活価節の計測点 ・活価節の計測点 ・活価節の計測点 ・活価節の計測点 ・活価節の計測点 ・活価節の計測点 ・活価節の計測点 ・活価節の計測点 ・活価節の計測点 ・活価節の計測点 ・活価節の計測点 ・活価節の計測点 ・活価節の計測点 ・活価節の計測点 ・活面節の計測点 ・活面節の計画 ・活面節の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		
1 共通編	2	Ţ Į į	3	掘削工 (水中部) (面管理の場合)	法(小	平場 標高較差 面 水平または 段合む) 標高較差	平均值 ±50 ±70		1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)河川接津工事編」は基づき出来形管理を画管理で実施する場合、そのほか本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±100mmが含まれている。 3. 計測は平場面と法面の全面とし、すべての点で設計面との標高較差を算出する。計測密度は1点/㎡(平面投影面積当たり)以上とする。			1 共通編	土工工	河	3	掘削工 (水中部) (面管理の場合)		標高較差水平または標高較差	平均值 ±50 ±70	個々の 計測値 ±300 ±300	1. 3次元データによる出来形管理おいて「3次元計測技術を用いた出 形管理要領(案)」に基場合、そのほ 基準に規定する計測精度・計測管理 支施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測 度として±100mmが含まれている。 3. 計測は平場計画との標高較差を しすべての点で設計面との標高較差を しずでの点で設計面との標面をを しずでの点で設計面との標面を 面積当たり)以上とする。	来管 管か 度をを 精		
1 共通編	2 名河川・淮岸・花砂土工	 	1	盛土工		基準高 \bigvee 法長 ℓ $\ell < 5m$ $\ell \ge 5m$ 幅 \mathbf{w}_1 , \mathbf{w}_2			施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は各法肩で測定。 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工編 計測技術 (断面管理の場合)の規定により測点による管理を行う場合は、設計図書の測点毎。基準高は各法肩で測定。	Q V Q Q Q Q Q Q Q Q Q Q Q Q Q Q Q Q Q Q	1-2-3-3	1共通編	2 土 工	3 河川土工・海岸土工・砂防土工	1	盛土工	基準7 法長0 幅w ₁ ,	$\ell < 5m$ $\ell \ge 5m$			施工延長40m(測点間隔25mの場合50m)につき1ヶ所、延長40m(また50m)以下のものは1施工箇所につ2ヶ所。 基準高は各法肩で測定。 ただし、「3次元計測技術を用いた来形管理要領(案)」の規定により点により 点による管理を行う場合は、設計段の測点毎。基準高は各法肩で測定。	2	1-2-3-3	

						瑪	行(全	和3年										改定	案(令	介和4年	手版)					
編	章	節 条	技番	工種	測定	項目	規格	値	測定基準	測 定 箇	所	単位:mm 摘 要	編	章	節条	枝番	I. ;	種 測	」 定 項	B	規格値	直				単位:mm 摘 要
1 共	2 3		2	盛土工 (面管理の場合)	1X7 X2	^ I	平均値	個々の	1. 3次元データによる出来形管理に おいて「3次元計測技術を用いた出来 形管理画領(案) + 工編 条 点計測技	● 天端部の計測点		1-2-3-3	1 共	2 土	3 3 河川		盛土工 (面管理の場合)	1111			_{Kn/di} 個	間々の 1. 計測値 お	. 3次元データによる出来形管理 いて「3次元計測技術を用いた出 管理要領(案)」に基づき出来形	出来	100 AL EE 171	1-2-3-3
編	ř	· 毎 幸			天端	標高較差	-50	-150	術(面管理の場合)」に基づき出来形管理を面管理で実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度	○法面部の計測点			編		土工・			天	端標高	較差 -	-50 -	-150 理 基 満	!を面管理で実施する場合、その他 :準に規定する計測精度・計測密度 iたす計測方法により出来形管理を	①本 ● 天端 を ● 法面	部の計測点	.
		· 沙 坊			法面 4割<勾配	標高較差	-50	-170	を満たす計測方法により出来形管理を 実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精	平面積 1点/m2					海岸土工			法 4割<		較差 -	-50 -	-170 2.	:する場合に適用する。 . 個々の計測値の規格値には計測 :として±50mmが含まれている。	計測密度平面積	度 1点/m2	
	3	Ē			法面 4割≧勾配 (小段含む)	標高較差	-60	-170	度として±50mmが含まれている。 3. 計測は天端面と法面(小段を含						· 砂 防-			法 4割≧ (小段	勾配 標高	較差 -	-60 -	-170 3 む	. 計測は天端面と法面(小段を ・)の全面とし、全ての点で設計面	iŁ	V 1, 1 1	
					※ただし、 ここでの勾 配は、鉛直				む)の全面とし、全ての点で設計面と の標高較差を算出する。計測密度は1 点/m2(平面投影面積当たり)以上と する。	医鑑					土工			※たた ここて 配は、	の勾			点	標高較差を算出する。計測密度 : <mark>/ ㎡</mark> (平面投影面積当たり)以上 る。		天鑑	
					方向の長さ 1に対す る、水平方				4. 法肩、法尻から水平方向に±5cm 以内に存在する計測点は、標高較差の 評価から除く。	小殿	Ø							方向の 1に対 る、オ	り 長さ す (平方			以	. 法肩、法尻から水平方向に±5 内に存在する計測点は、標高較差 価から除く。		小殿	3
					向の長さX をX割と表 したもの				5. 評価する範囲は、連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が									向の長 をX害 したも	と表			面変	. 評価する範囲は、連続する一つ とすることを基本とする。規格値 わる場合は、評価区間を分割す	直が ⁻る		
									変わる場合は、評価区間を分割するか、あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。														、あるいは規格値の条件の最も厳値を採用する。	をし		
1	9 5	3 4		盛土補強工					施工延長40m(測点間隔25mの場合は			1-2-3-4	1	2	3 4		盛土補強工					this	:工延長40m(測点間隔25mの場合	· <i>t</i> +		1-2-3-4
共通編	土道工厂	可 •		(補強土 (テールアル メ) 壁工法)	厚	準高▽ さ t	-50 -50		50m) につき 1 ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。	V			共	土	河川土		(補強土 (テールメ)壁工法)		基準高▽ 厚さ t		-50 -50	50r 50r)m) につき1ヶ所、延長40m (<mark>また</mark>)m) 以下のものは1施工箇所につ ケ所。	は		
	j	毎 岸 ・ 沙		(多数アンカー式補強 土工法) (ジオテキスタイルを 用いた補強土工法)		き長さ	設計値	1上		/ =	T t				┷ 海 岸		(多数アンカー型 土工法) (ジオテキスタィ 用いた補強土工法	(ルを	控え長さ		設計値以	来	だし、「3次元計測技術を用いた 形管理要領(案)」に基づき出来 理を実施する場合は、同要領に規	そ形	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	t
	B 	坊 上 エ													土工・砂							方	る計測精度・計測密度を満たす計 法により出来形管理を実施するこ できる。		\	
															防土工											
1 共 通	土	3 5 可		法面整形工 (盛土部)	厚	さt	* -:		施工延長40m(測点間隔25mの場合は 50m)につき1ヶ所、延長40m(又は 50m)以下のものは1施工箇所につき			1-2-3-5	1 共 通	土	3 5河川		法面整形工 (盛土部)		厚さ t		※ −30	50r	:工延長40m (測点間隔25mの場合)m) につき1ヶ所、延長40m (<mark>また</mark>)m) 以下のものは1施工箇所につ	は		1-2-3-5
編	ří.	· 毎 岸		(MET 11)					30個/ 5月 10日	t //	t		編		土工・		(加工口口)					2 5 *:	ヶ所、法の中央で測定。 土羽打ちのある場合に適用。		t t	
		・ 沙 坊								121121					海岸土工							来	:だし、「3次元計測技術を用いた :形管理要領(案)」に基づき出来 :理を実施する場合は、同要領に規 [:] る計測精度・計測密度を満たす計	そ形 見定	ISIIISI	-
]	Ē													· 砂 防-							方	法により出来形管理を実施するこ できる。			
1 共通編	2 土 エ リ	可 II		堤防天端工	厚さ t	t <15cm	-25		幅は、施工延長40m (測点間隔25mの 場合は50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所	w	→	1-2-3-6	共通	± エ	+ 3 6 河 川		堤防天端工	厚は		15cm	-25	場(は、施工延長40m (測点間隔25m 合は50m) につき1ヶ所、延長40 (または50m) 以下のものは1施工	m	w w	1-2-3-6
編	#	・ 毎 岸 ・			幅	t ≧15cm w	-50 -10		につき2ヶ所。 厚さは、施工延長200mにつき1ヶ 所、200m以下は2ヶ所、中央で測 定。		t l		編		· 海 岸					15cm	-50 -100	厚	Fにつき2ヶ所。 Iさは、施工延長200mにつき1ヶ F、200m以下は2ヶ所、中央で測		t t	
	R =	沙 坊 土			ΨŒ	w	-10	,							砂 防 土 工			Ψ ά	1	w	-100			/	\	
1		I 4 2	1	掘削工					施工延長40m(測点間隔25mの場合は			1-2-4-2				1	掘削工					tpfe:	:工延長40m(測点間隔25mの場合	5.14		1-2-4-2
共通編	土 工 選	首		394 HU 11-		推高▽ ℓ<5m	±50 -20		50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。			1242		土工	道 路 土	1	эды г19 <u>- 1.</u>			(5m	±50 -200	50r 50r 2 ケ)m) につき1ヶ所、延長40m(<mark>また</mark>)m) 以下のものは1施工箇所につ ヶ所。	はっき		1 2 4-2
		I.			法長0	0 ≥ 5 m	法長一	, .	ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)土工編 計測技術 (断面管理の場合)」の規定により測 点による管理を行う場合は、設計図書	Q V					エ			法		≧ 5m	法長-4%	· 来	だし、「3次元計測技術を用いた 形管理要領(案)」の規定により による管理を行う場合は、設計図)測点毎。基準高は、道路中心線ま)]]書	w	
						畐 w	-10	,	点による音様を打り物合は、最前図音の測点毎。基準高は、道路中心線及び端部で測定。	*	·								幅w		-100		(例が井。 基準制は、追避中心線を 端部で測定。			

				現行(令和3年版)	改定案(令和4年版)
	Arts: /	タ ++ 平	T 26		
編 2 土 工章 2 土 工	4 道	条	工種掘削工(面管理の場合)	平均値 個々の 計・測値 おいて「3次元計測技術を用いた出来 共 土 道	道 (面管理の場合) 平均値 間々の 計測値 おいて「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)」に基づき出来形管
1 2 共通 工	道	3 1	路体盛土工路床盛土工	基準高∨ □ 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は □ 1-2-4-4 単 土 道	
1 2 土 工		3 2	路体盛士工 路床盛土工 (面管理の場合)		道 4 (面管理の場合) 事測値 おいて「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)」に基づき出来形管 理を面管理で実施する場合、その他本 土 路床盛土工 工場 上での場合 本の場合 ・天端部の計測点 理を面管理で実施する場合、その他本

					現	行(令和3	年版)								改算	定案(令和	4年版)		
編 3 土木工事共通編	章 2 一般施工	第 3 共通的工種	条 枝雀	工 種 矢板工 [指定仮設・任 意仮設は除く] (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	測 定 項 目 基準高▽ 根入長 変位0	規 格 値 ±50 設計値以上 100	測 定 基 準 基準高は施工延長40m(測点間隔25m の場合は50m)につき1ヶ所、延長40 m (又は50m)以下のものは1施工箇 所につき2ヶ所。 変位は、施工延長20m(測点間隔25m の場合は25m)につき1ヶ所、延長20 m (又は25m)以下のものは1施工箇 所につき2ヶ所。	測 定 箇 所 - C	単位: m 摘 要 3-2-3-4	編 3 土 木 工	2 一 般 施 工	節 条 4 3 共通的 工程	枝番	工 種 矢板工(指定仮設・任 意仮設は除く) (網矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	測 定 項 目 基準高▽ 根入長 変位0	規格値 ±50 設計値以上 100	測定基準 基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。変位は、施工延長20m(測点間隔25mの場合は25m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 「3 次元計測技術を用いた出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測技術を用きまた当期は存む。」は、1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	利 定 箇 所 (C) (ISIS) (ISIS) (ISIS)	単位: 摘 要 3-2-3-4
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	5	縁石工 (縁石・アスカーブ)	延長L	-200	1ヶ所/1施工箇所 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 計測技術 (博面管理の場合)」の規定により管理を行う場合は、延長の変化点で測定。		3-2-3-5	土木工	般施工	3 5 3 4 通的工種		縁石工 (縁石・アスカーブ)	延長L	-200	1ヶ所/1施工箇所 ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)」の規定により管 理を行う場合は、延長の変化点で測 定。		3-2-3-5
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	17	根固めブロックエ	基準高▽ 厚さ t 幅W1, W2 延長 L1, L2 乱積 延長 L1, L2	± 100 -20 -20 -200 $\pm t/2$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。 1施工箇所毎 施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		3-2-3-17	土 木 工	般施工	3 共通的工種		根固めブロックエ	基準高▽ 厚さ t 幅W1, W2 延長L1, L2 基準高▽ 延長L1, L2	± 100 -20 -20 -200 $\pm t / 2$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。 1施工箇所毎 施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	L ₁ + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	3-2-3-17
3土木工事共通編	2 一般 施工	3 共通的工種	19	捨石工	基 準 高 ▽ 幅 w 延 長 L	-100 -100 -200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。	t は根固めブロックの高さ	3-2-3-19	土 木 工	般施工	3 共通 的工種		捨石工	基 準 高 ▽ 幅 w 延 長 L	-100 -100 -200	施工延長40m(測点間隔25mの場合は 50m)につき1ヶ所、延長40m(また は50m)以下のものは1施工箇所につ き2ヶ所。	t は根固めブロックの高さ w	3-2-3-19
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	26 1	多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積 み)	基準高 ▽ 法 長 ℓ 延 長 L	±500 -200 -200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (叉は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。		3-2-3-26	土木	ー 般 施	3 26 34 通的工種	1	多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積 み)	基準高 ▽ 法 長 ℓ 延 長 L	±500 -200 -200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (また は50m) 以下のものは1施工箇所につ き2ヶ所。		3-2-3-26
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	26 2	多自然型護岸工 (かごマット)	法 長 Q 厚 さ t 延 長 L	-100 -0.2 t -200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (叉は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。		3-2-3-26	土 木 エ	般施工	3 共通 的工 種	2	多自然型護岸工	法 長 Q 厚 さ t 延 長 L	-100 -0.2 t -200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (また は50m) 以下のものは1施工箇所につ き2ヶ所。		3-2-3-26
3土木工事共通編	2 一般 施工	3 共通的工種	27 1	羽ロエ (じゃかご)	法長 ℓ 0 23m ℓ≥3m 厚 さ t	-50 -100 -50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。		3-2-3-27	土木工	般施	3 共通 的工 種	1	羽口工 (じゃかご)	法長 ℓ ℓ<3m ℓ≥3m 厚 さ t	-50 -100 -50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (また は50m) 以下のものは1施工箇所につ き2ヶ所。	t	3-2-3-27

					現	l行(令和:	3年版)								改	定案(令和4	4年版)		
編	章 〔	 条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準		単位:mm 摘 要	編	章	節条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測定箇所	単位:mm 摘 要
3 ±	2 3 - #	ŧ	2	羽口エ	高 さ h	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は	L ₁	3-2-3-27	3 ±	_	3 27 共	2	羽口エ	高 さ h	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (また	L1	3-2-3-27
3 土木工事共	般施品工)		(ふとんかご、かご 枠)	延長 L1, L2	-200				土木工事	般 施 工	通 的 工 種		(ふとんかご、かご 枠)	延 長 L1, L2	-200	は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
共通編	工 和	É								共通		種					-	h	
編								h		編									
3	2 3	3 28		プレキャストカルバー	基準高 ▽	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は	L ₂	3-2-3-28	3	2	3 28		プレキャストカルバー		±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は		3-2-3-28
土木工事:	ー 兄般 Li か			トエ (プレキャストボック	※幅 w		50m) につき 1 ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 ヶ所。	L L		木	般	プ レ キ		トエ (プレキャストボック	※幅 w	—50	50m)につき1ヶ所、施工延長40m (<mark>また</mark> は50m)以下のものは1施工箇 所につき2ヶ所。	L L	
事共通編	Ĩ 4	?		スエ) (プレキャストパイプ	※高 さ h	-30	※印は、現場打部分のある場合。			事共通	エ	ヤスト		スエ) (プレキャストパイプ	※高 さ h	-30			
編	j J	1			延 長 L	-200	1 施工箇所毎	h O		編		カル		1	延 長 L	-200	1 施工箇所毎	h C	
								h w h				バ -						h w h	
]											エ							
3 +	2 3 - ‡	3 29	1	側溝工			施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、施工延長40m		3-2-3-29	3 +	2 _	3 29 共	1	側溝工			施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、施工延長40m (ま		3-2-3-29
木工事	般施的工	Á		(プレキャストU型側 溝)	46.0% 44.00		(又は50m) 以下のものは1施工箇所 につき2ヶ所。	пп			般施	通 的		(プレキャストU型側 溝)	44.04.44		たは50m) 以下のものは1施工箇所につ き2ヶ所。		
共通	上			(L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基準高▽	±30	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)舗装工編 計測技術(断面 管理の場合)」の規定による測点の管	₩		共通	工	工 種		(L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基準高▽	±30	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。		
編							理方法を用いることができる。			編							1, = /14/7 (4.7)	***************************************	
					延長L	-200	1ヶ所/1施工箇所 ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)舗装工編 計測技	100 mm							延長L	-200	1ヶ所/1施工箇所 ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)」の規定により管	- Maria	
							術(断面管理の場合)」の規定により 管理を行う場合は、延長の変化点で測 定。	8888									理を行う場合は、延長の変化点で測定。		
3	2 3	20	2	加達 丁			施工延長40m(測点間隔25mの場合は		3-2-3-29	3	2	3 29	2	側溝工			施工延長40m(測点間隔25mの場合は		3-2-3-29
	- J	ŧ		(場所打水路工)	基 準 高 ▽ 厚 さ t1, t2	±30 -20	50m) につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所	t ₁ W t ₂	3 2 3 25	土木	— 般	共 通		(場所打水路工)	基準高▽ 	±30 -20	50m)につき1ヶ所、施工延長40m (<mark>また</mark> は50m)以下のものは1施工箇	t ₁ W t ₂	3 2 3 29
土木工事共通編	般 施 五				幅 w	-30	につき2ヶ所。	h ₁ h ₂		共	施工	的工種			- F C t1, t2	-30	所につき2ヶ所。 - -	h ₁ h ₂	
通編					高き h1, h2	-30				編					高さ h1, h2	-30			
					延 長 L	-200	1 施工箇所毎								延 長 L	-200	1 施工箇所毎	Ť !!!!	
3 土 木	2 一 般 道	i i	3	側溝工 (暗渠工)	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所。 延長40m (又は50m) 以下のものは1		3-2-3-29		2 一 般	3 29 共 通	3	側溝工 (暗渠工)	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工につき2ヶ		3-2-3-29
木工事共通	般施工和	-			幅w ₁ ,w ₂	-50	− 施工につき2ヶ所。「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 計測技術(断面	W1		事共	施工	通的工種			幅w ₁ , w ₂	-50	所。「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理		
通編					深さh	-30	管理の場合)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	h		共通編					深さh	-30	方法を用いることができる。	h	
							1施工箇所毎	W ₂									1施工箇所毎	W ₂	
					延長L	-200	ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)舗装工編 計測技 術(断面管理の場合)」の規定により								延長L	-200	ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)」の規定により管 理を行う場合は、延長の変化点で測		
3	2 4	. 1	1	一般事項			管理を行う場合は、延長の変化点で測定。 施工延長40m(測点間隔25mの場合は		3-2-4-1	3	2	4 1		一般事項			定。 施工延長40m (測点間隔25mの場合は		3-2-4-1
	一 基 般 磁	*		(切込砂利)	幅 w 厚さ t1 , t2	設計値以上 	50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき		211	土木	— 般	基礎		(切込砂利)	幅 w	設計値以上 -30	50m) につき1ヶ所、延長40m (<mark>また</mark> は50m) 以下のものは1施工箇所につ		
共	施工	-		(砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)		各構造物の規格値に	2ヶ所。 よ			共	施工	エ		(砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	厚さ t1 , t2 	各構造物の規格値によ	き2ヶ所。 -		
通編						<u>る</u>		 		編						<u></u> వ	-	 	

				尹	見行(令和3年	年版)							改	定案(令和	14年版)	
編	章	節条	枝番 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	単位: ㎜ 摘 要	編章	節 節	条材	(番 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	単位: n 測 定 箇 所 摘 要
3 土 木		4 3 基 礎	1 基礎工(護岸) (現場打)	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき	W	3-2-4-3	3 2 土 - 木 州	2 4 基	3	1 基礎工 (護岸) (現場打)	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき	3-2-4-3
木工事共	施 工	エ		幅w	-30	2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)護岸工編」の規定による測			木	<u> </u>			幅w	-30	2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理	w d
通編				高さ h	-30	点の管理方法を用いることができる。	h		通編				高さh	-30	要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測 精度・計測密度を満たす計測方法によ	h
				延長L	-200								延長L	-200	相反・前側密度を側にり前側が伝により出来形管理を実施することができる。	
3	2	4 3	2 基礎工(護岸)			施工延長40m(測点間隔25mの場合は		3-2-4-3	3 2	2 4	3	2 基礎工(護岸)			ー 施工延長40m(測点間隔25mの場合は	3-2-4-3
土木	般	基礎	(プレキャスト)	基準高▽	±30	50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき		0 2 1 0	土 月	基礎		(プレキャスト)	基準高▽	±30	50m) につき1ヶ所、延長40m(<mark>また</mark> は <u>50m)以下のものは1施工箇所につき</u>	
木工事共通編	工	I		延長L	-200	2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要額(案)護岸工糧」の規定による測 点の管理方法を用いることができる。			工事共通編				延長L	-200	2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。	
3 土		4 基		基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。 d:	$= \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-4-4	3 ± -	2 4 基	4	1 既製杭工	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 3-2-4-4
木工事		礎 工	(既製コンクリート 杭) (鋼管杭)	根入長	設計値以上				木 月 五 万	五		(既製コンクリー) 杭) (鋼管杭)	根入長	設計値以上	─「3次元計測技術を用いた出来形要領管理(案)」に基づき出来形管理を実─施する場合は、同要領に規定する計測	d
共通編			(H鋼杭)	偏心量 d	D/4以内かつ100以内				共通編			(H鋼杭)	偏心量 d	D/4以内かつ100以		
луны				傾斜	1/100以内				npHHI				傾斜	1/100以内	•	
3	2	4 4	2 既製杭工	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。 d:	$= \frac{\sqrt{x^2 + y^2}}{\sqrt{x^2 + y^2}}$	3-2-4-4	3 2	2 4	4	2 既製杭工	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 3-2-4-4
土木工事	般	基 礎 工	(鋼管ソイルセメント	基準尚 ▽ 根入長	設計値以上				土 月 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	基礎工		(鋼管ソイルセメン 抗)		設計値以上	-	VX + y
共	I.		1007	偏心量 d	100以内				事共			1,00	偏心量 d	D/4以内かつ100以	为	
通編				傾斜	1/100以内		y		通編				傾斜	1/100以内		D y
				杭径D	設計値以上		x b						杭径D	設計値以上		H x
																N N N N T
3 土木工事	般	4 5 基 礎	場所打杭工	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。 d:	$= \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-4-5	土 月	2 4 基 碳	5	場所打杭工	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。 	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 3-2-4-5
工事共	施工	エ		根入長 偏心量 d	設計値以上				事				根入長 	設計値以上 100以内	要領(案)」に基づき出来形管理を実 一施する場合は、同要領に規定する計測 精度・計測密度を満たす計測方法によ	
通編				便斜	1/100以内	-	D y		通編				便斜	1/100以内	り出来形管理を実施することができる。	D y
				杭径D	設計径(公称径) -30以上		人 x						杭径D	設計径 (公称径) -30以上		
3 土 木	2 一 般	5 石 ·	1 コンクリートブロック 工	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき		3-2-5-3	3 土 木 丸 工	- 石	3	1 コンクリートブロック 工	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき	3-2-5-3
木工事共通編	工	ブロッ	(コンクリートブロッ ク積) (コンクリートブロッ	ℓ<3m	-50	2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の 2ヶ所を測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理	t, t ₂		工事	1 ブ		(コンクリートブロック積) (コンクリートブロッ	0<3m	-50	2ヶ所。厚さは上端部および下端部の	tı tz
通編		ク 積	ク張り)	法長ℓ ℓ≧3m	-100	要領 (案) 護岸工編」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	2 8		通編	ク 積		ク張り)	/ 法長ℓ ℓ≧3m	-100	要領 (案)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。	2
		(張) 工		厚さ (ブロック積張) t ₁	-50					(張) 工			厚さ (ブロック積・張) t ₁	-50		
				厚さ(裏込) t ₂	-50		ti						厚さ(裏込) t ₂	-50		t ₁
				延長L	-200		£2						延長L	-200		

						現	行(令和3年	年版)								改	定案(令和	4年版)		
	1	ı	1							単位:mm	1									単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	編		節条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要 3-2-5-3
土木		石	3	2	コンクリートブロック 工	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき	Ι.,	3-2-5-3	土木	2 一般	五 3	2	コンクリートブロック 工	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき	Lı	3-2-5-3
工事共	施工	ブロッ			(連節ブロック張り)	法長ℓ	-100	2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)護岸工編」の規定による測	2/7		木工事共	Ī	ブロッ		(連節ブロック張り)	法長0	-100	2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理		
通編		ク 積				延長 L ₁ , L ₂	-200	点の管理方法を用いることができる。			通編		ク 積			延長 L ₁ , L ₂	-200	方法を用いることができる。	2/5	
		(張) 工							L 2				(張 工						L 2	
3		5	3	3	コンクリートブロック	基準高▽	±50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は		3-2-5-3	3		5 3	3	コンクリートブロック	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は		3-2-5-3
木工	般施	石・ブ			⊥ (天端保護ブロック)	幅w	-100	50m) につき1ヶ所、延長40m(又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。	w		土木工事	般	石 ・ ブ		上 (天端保護ブロック)	幅w	-100	50m) につき1ヶ所、延長40m (<mark>また</mark> は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。	₩	
事共	工	ロッ			(Nam Mag / P / / /	延長L	-200	- 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)護岸工編」の規定による測	問語かご		事共	エ	ロッ		(人列の人) ログライ	延長L	-200	「3次元計測技術を用いた出来形管理		
通編		ク 積				<u> </u>	200	点の管理方法を用いることができる。	則而 // * _		通編		ク 積			/E/L	200	要領(案)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。	間詰かご	
		(張) 工							連結プロック				(張) 工						連結ブロック	
-	0	_	4		緑化ブロックエ			施工延長40m (測点間隔25mの場合は		3-2-5-4	2	0	5 4		緑化ブロックエ			施工延長40m(測点間隔25mの場合は		3-2-5-4
土木	2 一般	石・	4		球化ノロツクエ	基準高▽	±50	- 旭工延長40m (側点间隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は ▼50m) 以下のものは1施工箇所につき	t: tz	3-2-5-4	土		石 4		豚化ノロックエ	基準高▽	±50	FO) 17 - 3.1 FT 75 F 40 (3.4).1	tı tz	3-2-5-4
木工事	施	ブロ				ℓ<3m 法長ℓ	-50	2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の - 2ヶ所を測定。	e F		木工事	施	ブロ			0<3m 法長0	-50	2ヶ所。厚さは上端部および下端部の - 2ヶ所を測定。	, T & T	
共通		ック				0≥3m	-100	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)護岸工編」の規定による測	2 to to		共通		ツ ク			$\ell \ge 3m$	-100	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理	t ₁	
編		積				厚さ (ブロック) t ₁	-50	点の管理方法を用いることができる。 -			編		積 (張)			厚さ (ブロック) t ₁	-50	方法を用いることができる。 -		
		張				厚さ(裏込) t 2	-50						版 エ			厚さ(裏込) t ₂	-50			
						延長L	-200	_								延長L	-200		t _z	
3 土	2	5 石	5		石積(張)工	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は		3-2-5-5	3 土	2	5 5 石		石積(張)工	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (<mark>また</mark> は		3-2-5-5
木工	般施	・ブ				ℓ<3m	-50	■50m)以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の	t: t2		土木工事	施	ブ			Q < 3m	-50	- 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。厚さは上端部および下端部の	t ₁ t ₂	
事共通		リカ				法長ℓ ℓ≧3m	-100	2ヶ所を測定。「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)護岸工編」の規定による測	e/		事 共 通		ロ ツ ク			法長0 0≥3m	-100	─2ヶ所を測定。「3次元計測技術を用いた出来形管理」の規定による測点の管理		
編		積				厚さ(石積・張) t 1	-50	点の管理方法を用いることができる。	t 1/1///		編		積			厚さ(石積・張) t ₁	-50	方法を用いることができる。	t ₁ ////////////////////////////////////	
		張				厚さ(裏込) t ₂	-50		***************************************				張			厚さ(裏込) t ₂	-50		2	
		エ				延長L	-200		t ₂				I			延長L	-200		t ₂	
											3	2	6 6	4	橋面防水工(シート系					
											土木工事:	- 般	一 般 舗 装		床版防水層)	シートの重ね幅	−20~+50	標準重ね幅100mmに対し、1施工箇所 毎に目視と測定により全面を確認		3-2-6-6-4
											共通編		I							

							現行(令	和3年版)										改定	案(令和	14年版)		
							4E 16 14				単位:mm						_ 	Tra				単位:mm
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値 10個の形定値 (X) (X) (X) (X) (X) (X)	10) 場合 測 定 基 準	測定	箇 所	摘 要	編	章	節条	枝番	工種	測定項目	規 個々の測定値 (X)	格 値 10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	施	6一般舗装工	7	1	アスファルト舗装 (下層路盤工)	基準高▽厚さ幅		規模 人下 基準高は延長40m毎に1ヶ所の割し、道路中心線および端部で測定。 さは各車線200m毎に1ヶ所を掘りこして測定。幅は、延長80m毎に1所の割に測定。ただし、幅は設計の測点によらず延長80m以下の間隔測定することができる。	早間では、 はさのでは、 はないでは、 はないでは、 といいでは、 はないでは、 はないないが、 はないは、 はないはないは、 はないはないは、 はないは、 はないはないはないは、 はないは、 はないは、 はないは、 はないは、 はないは、 はないは、 はないは、 はないは、 はないは、 はないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないは、 はないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないはないは	事とは、管ない では能ないで では、でない。 では、では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	3-2-6-7	3 土木工事共通編	2一般施工	6 7 般舗装工	1	アスファルト舗装工(下層路盤工)	基準高▽厚さ幅	中規模 以上 ±40 ±50 -45 -50 -50	中規模 以上 小規模 以下 -15 -15 - -	基準高は延長40m毎に1ヶ所の割とし 道路中心線および端部で測定。厚さ 各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こし 測定。幅は、延長80m毎に1ヶ所の割 測定。左だし、幅は設計図書の測点 よらず延長80m以下の間隔で測定す ことができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管	はて、管理工事とは、管理工事とは、管理工事とは、管理工事とは、下の管理が10,000層の層を大いい、舗装施工する。 3,000 t 以上の事業を描い、 4、000 f 以上の事業を出い、 5、000 f 以上の事業を出い、 5、000 f 以上の事業をいい場合で、 6、000 f 以上ののの所で、 6、000 f 以上ののの所で、 6、000 f 以上ののの所で、 6、000 f 以上ののの方で、 6、000 f 以上のの方で、 6、000 f 以上の方で、 6 を	を上混場 工結工運当 未 の 個れ値な
3 土木工事共通編	施	6 一般舗装工	7	2	アスファルト舗装 (下層路盤工) (面管理の場合)	正 基準高▽ 厚さあるV は標高較差	15 +00 +00 +40	1.3次元データによる出来形管理 おいて「3次元計測技術を用いた出 形管理要領(案) 舗装工編 基づき出 技術 「音理要領(案) 舗装工編 基づき出 技術 「音理の場合」」に基 他を車 を実施 可	の平 事規模と表現 日本 で 本 で 本 で 本 で 本 で 本 で 本 で 本 で 本 で 本	に満かい。 を は、 を は、 を は、 を は、 を は、 を は、 で 理工事ととは、 能ない。 で 理工事ととは、 で 理工が日の場合といる。 は が10,000 届の場合。 は いので表層との、現機数日数に、 に いででを施工がいたに、 で 理性のがまといいでで、 を で は、 で 理性のに、 で で は、 で で は、 で で で と で で で で で で で で で で で で で で で で	3-2-6-7	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 7 6 般舗装工	2	アスファルト舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高▽ 厚さあるい は標高較差	±90 ±90 ±90 ±90	+40 +50 -15 -15 +40 +50 -15 -15	管理を実施する場合、その他本基準規定する計測精度・計測密度を満た計測方法により出来形管理を実施す場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測度として±10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし全ての点で標高値を算出する。計測	来形では、管理工事とは、管理工事とは、管理工事とは、管理工事とは、管理工事となる。 これは使用量が、3,000 t 以上のあ物の総使用量が、3,000 t 以上のあ物の総使用量が、3,000 t 以上の動物と変更である。 い現模である。 い現模でで施工事とは、中規模ので施工をでを施工をでから、 い現域ででがある。 は、中規模では、中規模では、中規模では、いいのでで、ののがは、大きに、中規模では、では、中域では、では、中域では、では、中域では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	値 3-2-6-7 等を上 混場 工 結 工 連 当 未
3 土木工事共通編	施	6一般舗装工	7		アスファルト舗装- (上層路盤工) 粒度調整路盤工	幅	-25 -30 -8 -50 -50 -	評価は4 6 時 9 ら。 幅は、延長80m 毎に 1 ヶ所の割とし -10 厚さは各 車線200m 毎に 1 ヶ所を 起こして測定。ただし、幅は設計図 の測点によらず延長80m以下の間隔 測定することができる。	の 中部 といた で はいる といた で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	事とは、管工学とは、管工学とは、管工学とは、管工学とは、管工学とは、管理学をいまたのが表別という。 3,000 t 以、規一の理解を以上ので表別とは、 3,000 t 以、規一の理がかから、 2,000 m 以 上 10,000 m 以 10	3-2-6-7	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 7 分數舗装工	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ幅	-25 -30 -50 -50	-8 -10 	こして測定。ただし、幅は設計図書	起 中規模以上の工事とは、管理図のを描いた上での管理が可能な工事測いい、舗装施工面積が可免のの耐力。あるいは使用する基層及び表層月合物の総使用量が、3,000 t 以上の合が該当する。	を上混場 工結工連当 未 の 個れ値なの

現行(令和3年版)																				改	定案	(令和	口4年片	反)						
						##	格値				単位:mm	1							#	見格	估								単位:mm	
編	章	節条	枝番	工種	測定項目	個々の測定値	10個の測定値の平均(V10)) 測	定基準	測	定 箇 所	摘要	編	章	節	条 枝番	F I	種	測定項目	個々の測定 (X)	10 の *	恒)個の測定値)平均(X10) 面管理の場 は測定値の 平均		測 定	基準		測 定	酱煎	:	摘要
3 土木工事共通編	2 - 般施工	6 7	4	アスファルト舗装二 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	「厚さあるりは標高較差	以上 以下		1.3で異面を対している。 1.3 で、 1.3 で、 1.3 で、 2.5 で、 3.5 で、 4.5 で、 4.5 で、 4.5 で、 4.5 で、 5.5 で、	則値の規格値には計測料 加が含まれている。 計幅員の内側全面とし、 高値を算出する。計測密 (平面投影面積当たり) 直下層の標高値と当該層 をで算出する。 高較差として評価下層の標 の目標高のである場合 の目標高度さから求まる高	中規模以上で施工を 描い、いのでは は総は一般をする。事は は総は一般をする。事は 事果をするものでは をするがでするがでするがです。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	工事とは、管理図等をは 管理が可能な工事をは 面積が10,000 ㎡以上の場合 る基層及び表層用混場 が、3,000 t 以上の場份 とは、中規模以上で場份 とは、中規模以上で場份 とは、中規模ので管理の に反映である規模の目 、次のいずれかに該当 う。 2,000 ㎡以上10,000 ㎡オ	いち合う に古に匿名 マ	土木	2一般施工	6一般舗装工	7 4	(上層 粒度調	ファルト舗装工 露路盤工 調整路盤工 音理の場合)	厚さあるいは標高較差	以上以	下り	規模 小規模 人上 以下 -8 -10	1 1 1 2 2 度 3 全度以 4 の 5 合	3領は対象を表現の主要を表現して、 3のでは、 3の	技にそ側管 規ま の当路 にれて 強力 にれて 強力 にれて しょう にい とう はい 全る積 値に 側す面 高値 値 りまる積 値 値 を しょう とう とう	出形にする 測 し測り 該 るの来管規計場 精 、密) 層 場標をいあ合合 事果事続す①満②総	事中描いる物が小よををする施 使使用規則に 部にのいま変に できます できます できます できます できます できます できます できます	工管面を (野はの長以 人 見ばい のの長以 上 管模数に のの長以 上 管模数に のの 音の 音を上混場 工結工連当 未 の	-2-6-7
3 土木工事共通編	2一般施工	6 7 般舗装工	5	アスファルト舗装二 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚さ幅	-25 -30 -50 -50		幅は、延長80 厚さは、1,00 を採取もしくり だし、幅は設	m毎に1ヶ所の割とし、 n㎡に1個の割でコアー は掘り起こして測定。た 計図書の測点によらとがで 間隔で測定することがで	描い、このでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	工事とは、	いち見易 に告に担当 ほこり 蜀れ直より	土木	2一般施工	6一般舗装工	7 5	(上層	ファルト舗装工	厚さ幅		-50 -	-8 -10 	さは、1, はも、以 10取し80m以 30m以 30m以 50m以 50m以 70m以 70m以 70m以 70m以 70m以 70m以 70m以 7	000㎡に1個 は掘り起こ 設計図書の の間隔で測!	の割でコアーニして測点によとず 連点をことが によることが 用いた出来形による測点の	をた延で 管管 理理 採だ長き 理理	事中描いる物診小よををする施 使使厚上な平れ一平規模に 舗は総当機規工い場の面 す量は割な値な数値の以上装使使す工模管、合を積 るが、合い値な数値をがはる場合、のの工す量、と小に「・う2、層しながは (らが適くのの工す量、と小に「・う2、層しな規と1にい値用	工管面るが、はさい反工次の格もしい。 中型が層及のあるエネットを対し、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、	等にの長以 人 世代数に 000 合 層個な測起厚 図事以用の の理の日該 ㎡ 物 ごけ定しさ等を上混場 工結工連当 未 の 個れ値なの	-2-6-7
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 7 6 分級網装工	6	アスファルト舗装- (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工 (面管理の場合)	「厚さあるり」は標高較差	-54 -63	-8 -10	3 (則値の規格値には計測料 加が含まれている。 計幅員の内側全面とし、 高値を算出する。計画 にでのでである。 は下層の標高値と当該層 をで算出する。 高数層である。 にでするが、 のではである。 はでするが、 のではである。 はいまする。 はいまなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はな。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。	中規模以上の介 推い、いの指し、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 と、 を は、 は、 と、 は、 と、 は、 と、 は、 と、 は、 と、 は、 と、 は、 と、 は、 と、 は、 と、 は、 と、 は、 は、 は、 り、 は、 は、 り、 は、 は、 と、 も、 と、 し、 で、 し、 で、 と、 で、 で、 で、 で、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	工事とは、管理図等をは 管理が可能な工事をし 面積が10,000 ㎡以上を よる基層及び表列の層用混場 が、3,000 t 以上の場合 いたものの、関模以上で とは、中規模以上で いたできる工が にて工種のに 工種のいずれかに が 、次のいずれかに が 。2,000 ㎡以上10,000 ㎡オ	いち合う 正吉正直省 長		2一般施工	6一般舗装工	7 6	(上層 セメン 安定処	ファルト舗装工	厚さあるいは標高較差	-54 -	-63 -	-8 -10	お形理定測合 2度 3全度以 4の 5合高 (関本) 1 (関本) 1 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	[3 () () () () () () () () () (技にそ測管 規ま の当た と当た と当本を実 にい 全る積 値で 側す面 信で 側す面 信が 自事	出形にする 測 し測り 該 るの来管規計場 精 、密) 層 場標をいあ合合 事果事続す①満②総	事中描いる物が小よををする施 使使 の以上装使使力工模管、合を積 るが500t. 後後、結は総当機規工い場の面 可量が 100 で 用用量。多は理同でいて 用用量が 2500t. 3 をするが500t.	工管面を (ではのでは、 理工が層上 上管模数に のの 合 等を上混場 工結工連当 未 の のでは、 ののでは、 が ののでは、 のの	-2-6-7

							現行	テ(右	令和3	年版	页)																改	定案	(令	和	4年版	į)							
							相 #	格値							•			単位:mm										規格	値										単位:mm
編	章	節条	枝番	工種	測定項目	中	規模 小規模 以上 以下	10個の の平均 *面管理 は測定	対(X10) 型の場合 値の平 句		測 定	主 基	连 準	測	定	箇 所		摘 要	編	章	節	条 枝	·番	工 種	測気	正坝日 -	個々の測 (X) 中規模 小	定値 :	0個の測定 の平均(X *面管理の 合は測定値 平均	10) の場 直の	測	定	基	準		測 :	定 箇	所	摘 要
3土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	アスファルト舗装工 (加熱アスファル 安定処理工)	厚さ幅	-	-15 -20 -50 -50		-7 J	厚さは、 を採取 書の測,	、1,000 m して測定。	m ² に11 。ただ ず延長	80m以下の間	一図隔 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	上ので面も対しています。 上ので面も関する。といに一、うっとので面を量。といに一、うっとのを関すれた。 はさ反正すが、はさ反正本のののでは、ない個でのを見ない。 はさ反正本のののでは、ない個では、ない個では、ない個では、はないのでは、はないでは、はいます。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	が10,000 ㎡ が10,000 ㎡ 高3,000 t 以 東 3,000 t 以 中もでのが 中もでのが 10 で 表以 以、規が が10 と B 用未満値に にたた 満の個ににし合演 ににたの 満の場	事以層上 上産糞数こ 20 合 はな則足事を上用の の理の日該 ㎡ 物 9け定しさいあ混場 工結工連当 未 の 個れ値なの	3-2-6-7		2一般施工	6 一般舗装工	7		アスファルト舗装工 (加熱アスファル 安定処理工)	<u>ا</u>	厚さ幅	-15		-5 -	-7 間 用 元 要	Sは、1,0 対して測算 削点によ 官すること 「3次元	00㎡に1 E。ずに らずで 技が 技の サ」の サ	1個の害 ごし、 長80m以 る。 肝を 見定によ	所の割とし、川でコアーを持っています。 川でコアーを書います。 日本の間隔でいた出来形管は いた出来形管がある。	採の測 理理 をいあ合合 事果事続す①満②総 以ばのけデ中描いる物が小よををする施 使使厚上な平れー	規い、いの該規り施いるも工 用用さのら均ば模た輪は終当権規管、合を積 るが、合い(らないを持て、合を積 るが、合い(らない)を持ち、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	D工管面 というにない はいました いいの はいい はい	「能ののでは、 の、000で展生の でのででは、 でのででは、 でのででは、 でのででは、 でのででは、 でのででは、 でのででは、 でのでは、 でいるでは、	3-2-6-7
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工		アスファルト舗装工 (加熱アスファル 安定処理工) (面管理の場合)	は標高較差		-36 -45	-5	-7 ####################################	お形技形にする 2度 3全度以 4の 5合高い管術管規計場 と ては上 標 は較 で理(理定測合 個し 計の1と 厚高 厚、差望になります。)	「要面をすたことで、側点点す。さ直 さ直 で 側点点す さ直 さ直 で 側点点す さ直 さ	計)場る精りる 値が 幅値平 下で 較目設測舗合場度出。 の含 員を面 層算 差標計技装)合・来 規ま の算投 の出 と高厚	術工編 と	に来測来準たす 精 、密) 層 場標比・結(総当規り施いるも工 用用 相いる物が、事果事続す①滴②総 使使 中球 投入に場の面 す量 が できない かいてが 手にない場の面 する はいめい てが 手にない場の 面 する はいかい またをする だいがい かいしょう はいしょう はいいしょう はいいしょう はいいい はいしょう はいい はいしょう はいいい はいいい はいいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい	考上の音を表しています。 考上の音面を表している。 ででであるが、といに一、う。 でであるが、といに一、う。 ででいます。 は、します。 は、します。 は、します。 は、します。 は、します。 は、します。 は、します。 は、します。 は、これまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	をは、管理は、 で可能の10,000㎡ 層及び表以上の の00 t以上の 、中規模の入り いいでものる気規 が10,000 tいいでものが が20,000 tいいずれかり	事以用の 上管真数こ 20 合を上混場 の理の日該 ㎡ 物いあ合合 工結工連当 未 の	3-2-6-7		2一般施工	6 一般舗装工	7 8	3	アスファルト舗装工 (加熱アスファル) 定定処理工) (面管理の場合)	字 さ	さ票高較差	-36	-45	-5 -	- 7 表	にいて	3 頁け刺より ひと ひでり かく 3 まこれ ひとり でんく 3 精り 4 はい がい でいる まい かられい でき こう でき かられい かられい かられい かられい かられい かられい かられい かられい		可側全面とし、 出する。計測 活面積当たり) 票高値と当該)	来管規計場 精 、密) 層 場標をいあ合合 事果事続す①満②総中描いる物が小よををする施 使使	規い、いの該規り施いるも工 用模た舗は総当模規工い場の面 す以上装使使す工模管、合を積 る上で施用用。事は理同でいると 基	のの工す者 といこー 、	「能なのでは、 の、000層と のでででは、 のででである。 は、では、 は、では、 は、では、 は、では、 は、では、 は、では、 は、では、 は、では、 は、では、 は、では、 は、では、 は、では、 は、では、 は、では、 は、では、 は、では、 は、は、 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	3-2-6-7
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	アスファルト舗装工(基層工)	厚幅		-9 -12 -25 -25		-4 J	厚さは、 を採取 書の測点	、1,000 n して測定。	m [*] に 1 f 。ただ ず延長	個の割でコア し、幅は設計 80m以下の間	合合 事果事続す①満②総 以ばのけデの コ 版物が小よををする施 使使厚上な平れ一平 ア橋等物が小よををする施 使使厚上な平れ一平 ア橋等と 特規工い場の面 す量は割な値な数値 採舗損 を (きを程 さが、 会り しょうば 取業債	上のでは、 は、 は	が 10,000 ㎡ の 10 で 10	図事以層上 上産糞玫こ 20 合 にな則足見則 よる等を上用の の理の日該 ㎡ 物 9け定しさ定 り場をいあ混場 工結工連当 未 の 個れ値なの値 床合	3-2-6-7	土木工	2 一般施工	6 一般舗装工	7	7	でスファルト舗装工 (基層工)	J <u>E</u>	厚さ幅		-12 -25		-4 d 現 用 一 定	だは、1,0 対して測り 関点によ とすること 「3次元	00㎡に1 を。ただ らずで さが 技 け り が 枝 横 り が 横 横 が 横 が 横 き き き が で も き が も た き も が も も も も も も も も も も も も も も も も も	1個の害 ごし、帽 長80m以 る。 Fをによ	所の割とし、 対 国には 記 に で に と を き に に の 間 に で に の に の に で に の に の に の に の に の の の の の の の の の の の の の	採の測 理理 をいあ合合 事果事続す①満②総 以ばのけデの コ 版中描いる物が小よををする施 使使厚上な平れ一平 ア橋等	規い、いの該規り施いるも工 用用さのら均ば夕均 一面に模た舗は終当棟規工い場の面 寸量は割な値な数値 採舗損傷 とき使使す工模管、合を積 るが、合い(ながは 取装締役)を表して施用用る事は理同で、ジュ 基50個でどこれなりに べ等を上で施用用を事は理同で、ジュニー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	D T T T T T T T T T T T T T T T T T T T	「能ののない」では、 の、000を以い、規がかいでは、 なので表は、以い、規がかいでは、 なのでは、は、規がかいでは、 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	3-2-6-7

								現行	宁 (令和	3年版)											改定	案(令和	14年版)		
編	章	節	条		エアスファルト	種	測定項目	個々の測定値 (X)	格 値 10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平均 で 中規模 小規模 以上 以下		基準による出来形管理に		定 箇 所	単位:m 摘 要	編	章	節 条	- 技	番 エ 種	測定項目	個々の測定値 (X)	格 値 10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合は測定値の 平均 中規模 以上 小規模	測 定 基 準 1.3次元データによる出来形管理(測 定 箇 所 指	単位:mm 摘 要
3.土木工事共通編	般施工	0一般舗装工			(基層工)(面管理の場		厚さあるいは標高較差	-20 -25	-3 -4	お下て (3代条) 表 (2 大会)	側技術を用いた出計画 開設が不 動力を 動力を が一 が一 が一 が一 が一 が一 が一 が一 が一 が一	中いた。 中地域 中地域 中地域 中地域 中地域 中地域 中地域 中地域 中地域 中地域	工事とは、管理図等をは 管理が可能な工事をは 面積が10,000 ㎡以上の まる基層及び表別との層用混合 が、3,000 t 以上の 場合 とは、中規模以上で といきのきが、 とはいきのきが、 とはいきのきが、 とないできない。 とないでは、 たて映での施工かに該当 、大のいずなが、 ないでいるが、 ないでいか、 ないでいるが、 といるが、 といる といるが、 といるが、 といる といるが、 といる といるが、 といるが、 といるが、 といるが、 といるが、 といるが、 とっとが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、		5.土木工事共通編	2一般施工	般		(基層工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-20 -25	-3 -4	おいて「3 次元計測技術を用いた出現形管理要領(案)」に基づき出来形行理を実施する場合、その他本業準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測	中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事を記いい、舗装施工面積が10,000㎡以上計合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工籍果を施工等とは、中規模以上の工籍果を施工管理に反映で心を選が、第十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	0-7
3 土木工事共通編	施工	6 一般舗装工	7	11	アスファル) (表層工)	舗装工	厚さ幅	-7 -9 -25 -25	-2 -3		. 1 個の割でコアー ただし、幅は設計図 延長80m以下の間隔	描いる合合 事果事続す①滴②総 以ばのけデの コ 版はい、い物が小よををする施 使使 厚上な平れ一平 ア橋等、いまりを開せる。 は割な値な数値、投舗損力である。 はいる	工事とは、ない。	毘房 二生二度子 そう 関ル道に対して	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	111	アスファルト舗装工(表層工)	厚さ 幅 平坦性	-7 -9 -25 -25	-2 -3 3 mプロフィルメーター (σ) 2. 4mm以下 直読式(足付き) (σ) 1. 75mm以下		中規模以上の工事とは、管理図等 を描いた上での管理が可能な工事を いい、舗装施工面積が10,000㎡以上 あるいは使用する基層及び表層用混 合物の総使用量が、3,000 t 以上の場 合が該当する。	6-7
3 土木工事共通編	施工	6一般舗装工	7	12	アスファル) (表層工) (面管理の場		厚さあるい は標高較差 平坦性	-17 -20 	直読式(足付 き)	お下子(3 (本年) お下子(3 (本年) 形を構作理を加する精りる。 を構作理を連動制にする。 2 度 と までは上と 厚値 を下では上と 厚値 を下では上と 厚値 を下では上と 厚値 を下では上と 厚値 を下でまた。 4 .標 層の目にする。 4 .標 厚直 を下でまた。 5 合は、 一部 を下でまた。	開装工編基本の 多点計畫 多点計畫 第一次 第一次 第一次 第一次 第一次 第一次 第一次 第一次	実ののエナ量が 事規模上装使使す模規工い場の面 するがが 事果をする施 大きをかがが、事果事続す①満②総 事果をする施 大きををする施 大きををする施 大きををする施 大きををする施 大きををする施 大きををするを 大きでできるが、 本ををするが、 本のが、 本のが、 本のが、 本のが、 本のが、 本のが、 本のが、 本のが、 本のが、 本のが、 本のが、 本のが、 本のが、 本のが、 本のが、 本のが、 本のが、 本のが、 本のが、 、このが、 、のが、	大事とは、管理図等を管理が可能な可能のでは、管理図等をでいた。では、管理図等をでいた。 では、管理図等をでいる。 では、のののでは、のののでは、のののでは、では、中規模以上のついさいものの、管理のこれが、では、中規模のできる。 では、中規模のできなが、ないでは、では、中規でのできなが、では、中規でのできなが、では、管理という。 のののが以上10,000㎡ができない。 のののが以上10,000㎡がおいては、平坦性の呼ばれば、平坦性の呼ばれば、平坦性の呼ばれば、平坦性の呼ばれば、平坦性の呼ばれば、中間では、中間では、中間では、中間では、中間では、中間では、中間では、中間では		3.土木工事共通編	2一般施工	般	12	アスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さあるい は標高較差 平坦性		直読式(足付 き)	理を実施する場合、その他本基準にま 定する計測精度・計測密度を満たすま 測方法により出来形管理を実施するも 合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測料 度として±4mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測初	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等 を描いた上での管理が可能な工事を 見いい、舗装施工面積が10,000㎡以上 おるいは使用量が、3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工 事まり規模は小さいものの、管理の工 事を施工管同一工種の施工が放ら直 続する場合で、次のいずれかに該当 行の施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未 満 ②使用する基層及び表層用混合物の 総使用量が500t以上3,000t未満 維持工事においては、平坦性の項 目を省略することが出来る。	6-7

	現行(令和3年版)																				改定	案(令和	4年版)					
						担	格値					単位:mm	n								規格	各 储								単位:mm
編	章	節 条	: 枝番	5 工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平均	計劃	定基準	測	定 箇 所	摘要	編	章	節	条	支番 工	種	測定項目		が、 H の測定値 (X)	10個の の平均管 合は測 平	(X10) 理の場 定値の	測	定	基準		測 定	箇 所	摘要
土木工	般角	6 8 一般 競輔 装工	1	半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽ 厚さ 幅	中規模 以上 ±40 ±50 -45 -45 -50 -50		基準高は延長 し、道路中心線 厚さして測定。 起こし、延長80 定。 ただし、幅は話	m毎に1ヶ所の害 g計図書の測点に』	中規模以上で ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は	上の工事は、管理図等を 力管理が可能な工事を おして 以上の場合が該当 は以上の場合が該当 事とは、中規模以上の はいさいもの、管模の は中二、種類のである規模の 同一工種の施工が数日	ハ 東 す 工 結 エ	土木工	一 般 施	6 一般舗装工	8		わみ性舗装工 層路盤工)	基準高▽ 厚さ 幅	以上	±50	中規模 以上 - -15	以下 — 第 — 15 10 — 2 — 2	道路 東 200m 車車 200m 脚定に 東定に が 大正 で 大正 で 大正 で 大変で 大変で 大震 で 大変で 大変で 大変で 大変で 大変で 大変で 大変で	および端音 毎に1ヶ所 、 し長80m し、幅は記 80m以下の る。 測技術を 月	『で測定。馬で測定。馬を掘り起こりを記りますの選手図書の選手の選手の選手では、 は計隔で出来の選手では、 は計隔で出来では、 は、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	びこり さし割点す でににる 理 理	工事規模の考え方、 中規模以上のの考えたの当期機以のの表上のの主格と層及いたとので表しまが3,000 t以表しまが3,000 t以換棋ではは、が規模性では、 計よなが現場ででは、 手よない場合が該対場のようである。 まない場合が該対しています。 まない場合が該対しています。	工事は、では、 を を を を を を でないので が は、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に	・い !用 っ ! 工 !結 ! 工
土木工	一 月 般 角 施 音	6 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	2	半たわみ性舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高▽ 厚さあるい は標高較差	±90 ±90 ±90 ±90	+40 +50 -15 -18 +40 +50 -15 -18	お次: 「3銀流 (理理 施計) 「3銀流 (理理 施計) 技術管理 正 力 方 適 を する 法 で 理 回 を する 法 に 財 別 合 に 財 別 合 に は と 厚 高 厚 直 平 の 標 図 以 上 ・ 厚 高 厚 直 平 の 標 層 値 ・ を 下 値 に ・ を 下 値 に ・ を 下 値 に ・ た 高 高 酸 を 下 値 ・ で 高 で 値 ・ で 極 値 ・ で 極 で 値 ・ で 極 で 値 ・ で 極 で 値 ・ で 極 で 値 ・ で 極 で 値 ・ で 極 で 値 ・ で 極 で 極 で 極 で 極 で 極 で 極 で 極 で 極 で 極 で	意) 納納 会別	出来 中規模で展 中規模でで展 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	上の工事は、管理図等をわりでは、管理図等をかり管理が可能な工事を使いて表層用混合物の総をはいました。 は以上の場合が該当する。 はいまでは、中規模以上のははいさいものの、管拠りできる規模できる規模のはできる規模の目のに対していました。	ハ 用 工 結 工	土木工	一 般 施	6 一般舗装工	8	(下月	わみ性舗装工 層路盤工) 管理の場合)	基準高▽ 厚さあるい は標高較差			+40 -15 +40 -15	+50 +50 -15 数 1 2 2 2 2 2 3 3 6	おい管をす方に こと 3全度以 4の 5合寫にできます方に こと こでは上 ・標 ・は散でです方に こと こでは上 ・標 ・は散ですが、 の土 はでくる はと を下める はい しょう はい	次(る精りる 計10 職情に、、の 標層値する場合・来 値点 関連が 幅値平 下で 数目散記。 別か 幅値平 下で 数目散記。 また のきり 優を面 層算 差積計の がまた で 数目数 のきり がった かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	を術生を対す理 にい 全る積 値にい 全る積 値にい 全る積 値とと がまま 値に とる かき しょう かい	1	正事規模の以上で表表の 中規模の以上で表表の 中規模と層及は、 一般では、 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を	工事は、管理工事は、管理工事は、管ない。 質用混合が該模の場合が が、中もで規模のる工が でで施工が でで施工が でで施工が ででを にでいる では、 にでいる にでいる にでいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる に	・ 1 用 5 工 1 結 5 工
土木工	一 般 施 話 工 ¾	6 一 般 輔 装 工	3	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ幅	-25 -30 -50 -50	-8 -10 	厚さは、各車 り起こして測算	E。ただし、幅は記 っず延長80m以下の	を掘 中規模以よびの 計図いた上基が3,00 る。 小規模工 事より施工 事をかい、 事をかい、	考え方 上の工事は、管理図等を 一型が可能な工事を にで表層用混合物の 10 t以上の場合が該当 事とは、中規模以上の は小さいものの、管理 理に反映できる規模の 同一工種の施工が数日 が該当する。	ハ 東 す 工 結 エ	土木工		6一般舗装工	8	(上月	わみ性舗装工 層路盤工) 調整路盤工	厚さ幅	-25 -50		-8 -	— 10 克 — 克	き は し に し 点 は て に る る 、 次 で に る 、 次 た 、 た た る 、 た る た る た る た る た る た る た る	線200m毎 。ただし、 ず延長80m ができる。 測技術を 月	こ1ヶ所を掘 幅は設計図 以下の間隔 いた出来飛 による測点の	19書で 管管起の測 理理 19号	工事規模の考え方、 中規模以外の当時 中規模以外の当時 い、基層でので表 量が3,000 t 以上の 小規規模で 小規規模管間 を 手といる 事といる 事といる 事といる 事といる 事といる 事を いる 事といる 事といる 事といる 事といる 事といる まを いる 事といる 事と でる のの また。 のの また。 のの また。 のの また。 のの また。 のの また。 のの であた。 のの また。 のの また。 のの また。 のの また。 のの また。 のの また。 のの また。 のの また。 のの また。 のの また。 のの また。 といる また。 といる また。 といる また。 といる また。 といる また。 といる また。 といる また。 といる また。 といる また。 といる といる といる といる といる といる といる といる といる といる	工事は、管理理図等を提出、管理工作のでは、 をはずれるでは、 はいま	・い 5 用 っ 5 工 1結 5 工
土木工	般角	6 	4	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-54 -63	-8 -10	おで で で で で で で で で で で で で で で で で で 理 値 を す る 法 適 を 皮 と と と で は と で で と で と で と で と で さ に と で と で と で と で と で と で と で と で で と で と で で に ら さ に と で で に ら に ら さ に と で に ら に ら さ に と で に ら に ら に ら に ら に ら に ら に ら に ら に ら に		田計画 ・田計画 ・田計画 ・田計画 ・田記 ・田記 ・田記 ・田記 ・田記 ・田記 ・田記 ・田記	上の工事は、管理図等を ク管理が可能な工事を で理層用混合物の総合。 以上の場合が該当する は以上の場合が該当する は小さいものの、管模の 理に反映できる規模 同一工権の施工が数日。	工結工	土木工	施	6 一般舗装工	8	(上原 粒度調	わみ性舗装工 層路盤工) 調整路盤工 管理の場合)	厚さあるいは標高較差		-63	-8	——10 計 表	おい管をす方に、と、3全度以、4、70、5、6、1、1のでは上、7年では上、7年では上、7年では上、7年では上、7年では、1、1のでは、1、1	次(る精りる 計10 設標点。 、の 標層値不 写り、計形 の含 員を面 層算 差標計制 の計 層算 差標計 のけ と 荷の十段 の は と で しょう いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱ	をがます。 をがまする。 と可いと表演施はる。 で可いと表演施はる。 で可いと表演施はる。 で可いと表演をできます。 でのできるできます。 でのできるできます。 でのできるできます。 でのできるできます。 でのできるできます。 でのできるできます。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	は	工事規模放文の考えの可 東規模模以の考上ので 東規夫と層3,000 t 北日。 東京 規模ではよび、 東京 規模では、 東京 規模では、 東京 は、 東京 は 、 東京 は 、 ま 、 東京 は 、 ま 、 東京 は 、 ま 、 ま 、 ま 、 ま 、 ま 、 ま 、 ま 、 ま	工事は、能容のは、 を を を を を を を を を を を を を	い 使 す 工 結 エ

																					改定	案(令和	74年版)						
								規	格値						単位:mm	n						規	格 値						単位:mm
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目		*面管理の場合は測定値の平均 は測定値の平均	1 測	定 基 準	測	定 箇	所	摘要	編	章	節 条	: 枝	番 工 種	測定項目		10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均 中規模 小規模	測 3	定基準		測 定	箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	5	半たわみ性舗 (上層路盤工) セメント(石 定処理工		厚さ幅	以上 以T -25 -30 -50 -50) -8 -10	幅は、延長80n 厚さは、1000n 取もしくは掘 し、幅は設計図	毎に1ヶ所の割とりに1個の割でつて30世に1個の割でつて30世にして測定。か書の測点によらず致で測定することがっ	・採だ長き ・採だ長き ・採がい用る 事果事続っ 機規工い、場取施いる採面損 ・ ルよををすア橋に ・ カル・ の、工模管、合に装を ・ 本の、大きををする採面損 ・ の、工模管、合に装を ・ では、 ・ では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	この工事は、管 た の管理が可能 た の t 以 上 の t はいい を はいい反映での はいいに反映値の が該当する。	理な合合 模のる工 にかな合合 模のる工 にかま いっぽん はいしょ てばな かまる はいしょ にはな かまる はいしょ にかい はいしょ にんしょ はんしょ しょうしょ はんしょう しょうしょ しょうしょう はんしょう はんしょ はんしょう はんしょ はんしょ はんしょ はんしょく はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ	3-2-6-8	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 8 一般舗装工	5	5 半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安 定処理工	厚さ幅	以上 以下 -25 -30 -50 -50	以上 以下 -8 -10 	さは、1,000㎡ 取もしくは掘り し、幅は設計図 80m以下の間隔 る。 「3次元計測技	ほに1ヶ所の割とし、 に1個の割でコアーを)起こして測定。た 書の測点によらず延 で測定することがて 術を用いた出来形管 規定による測点の管 とができる。	# 25	現を上でいる。 現存上層を 大のでは、 大のでは、 大のでは、 大のでは、 大のでは、 大のでは、 大のでは、 大のでは、 大のでは、 大のでは、 大のでは、 大のでは、 大のでは、 大のでは、 大のでは、 大のでは、 大のでは、 大のでは、 大のでは、 でいるが、 にいまして、 でいるが、 にいまして、 でいるが、 にいる	こ事は、管理図等を 連が可能な工事をい 層用混合物の総使の の場合が該当する。 は、いものも に、いものきる。 でで でで がで が変り、 でで がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 がった。 でが が でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がった。 でが がが がが でが がが でが がが でが がが がが	3-2-6-8
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	6	半たわみ性舗 (上層路盤工) セメント(石 定処理工 (面管理の場)	灰)安	厚さあるいは標高較差	-54 -63	-8 -10	おで (1 を で で で で で で で で で で で で で で で で で で	値の規格値には計れが含まれている。 幅員の内側全面とり値を算出する。計れ 平面投影面積当たり 下で算出する。 で第二として評価で高値と当まで第二として評価である。 を整差として評価で層の製計厚さから求まる。	平規 中規 上 で 中規 模 で で 地模 で で 地模 で で な と 下 地模 で で な が 3,000 t 工 模 管 本 東 東 事 続	の工事は、管理が可能な 管理が可能な び表の場合場の 以上はない。 中規は はいして で で で で で で で で で で で で で の い と は い に の い に の い に の に の に の に の に の に の に	理図等を描い用な物がある。工結に関するのでは、現では、現では、現では、現では、現では、現では、現では、またのではでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、ま	3-2-6-8	3土木工事共通編	2一般施工	6 8 8 6 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	6	5 半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安 定处理工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-54 -63	-8 -10	お野で	較差として評価する 目標高さ+直下層の 設計厚さから求まる	来管規計場 精 、密) 層 場標中いた表3,共り放しる	規模以上のI た上管理 を上層及でび表層 は、000 t 以上の 関模模型はは り規管理に反	正事は、 能なのは、 能なのは、 能なのに、 能なのに、 能なののという。 はいのに、 はいいのに、 はいいいのに、 はいいいいい。 はいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	3-2-6-8
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	7	半たわみ性舗: (加熱アスフ 安定処理工)		厚さ幅	-15 -20 -50 -50		幅は、延長80m 厚さは、1000m 取して測定。た	毎に1ヶ所の割とし に1個の割でコアを だし、幅は設計図記 長80m以下の間隔で	・採りで測 中規た、基。 小よををすず橋で削 を取り、い用る 事果事続って橋で 東来・続って橋で、合に装を を取り、これでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	の工事は、管 た の 管理が可能 た の で 要 所 用 場 る の し は い い も の ら は は い い し で 施 は い に 反 映 種 の に の し に で を 施 の に が き か ら の に か ら で き に が き か ら の に か ら で き に が き か ら に か ら で き に が き か ら に	な合合 模のる工 にの と総当 の理の日 床場 を総当 の理の日 床場 が 以、規が よある よの はの	3-2-6-8	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般 編 装 工	7	7 半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚さ幅	-15 -20 -50 -50	-5 -7 - -	さは、1,000㎡ 取して測定。た 測点によらず延 定することがで 「3次元計測技	術を用いた出来形質 規定による測点の質	「	現た屋が、 関を上層が 大のでは、現り 大のでは、現り 大のでは、現り 大のでは、まままで、は、ままで、は、ままで、は、ままで、は、ままで、まままで、まま	工事は、管理図等を 上まれ、管理図事を 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の	
3 土木工事共通編	施	6 一般舗装工	8	8	半たわみ性舗 (加熱アスフ 安定処理工) (面管理の場	アルト	厚さあるいは標高較差	-36 -45	-5 -7	おい管が はいました はいました はいて 理の を する はいて 理の を する はいて 理の を する はいて 理の を すった に な で 現 に する は と な で は と と は と と は と と は と で に さ と で に と い と い と い と い と い と い と い と い と い と	値の規格値には計れが含まれている。 幅員の内側全面とし 幅員を算出する。計れ 平面投影面積当たり 下層の標高値と当ま で第のはでもして評価である。 は関係である。 でで第一でである。 でで第一でである。 は関係でも は関係でも は関係でも は関係でも は関係でも は関係でも は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	正に 工事規模以の 主計測測 中規模以の 政権と 事規模以の 政・ は、 が3,000 t 事地模以の 政・ は、 が3,000 t 事に 事に 事に 事果ををする が3,000 t 事果ををする が3,000 t が3,000 t 事果ををする が3,000 t のの のの のの のの のの のの のの のの のの の	考え方 この理事は、管え で理事が可能な ので表層用場合がは、いいで、 は、、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	理工事総当 等をが 物当する。 は 以上管理の が が が が が が が が が が が が が が が が が が が	3-2-6-8	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	3 半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-36 -45	-5 -7	お形理定測合 2度 3全度以 4の 標層の 1 はと を下 1 は 2 を 1 では上 厚 高 厚 こ 直 を 2 では上 原 高 厚 に は 2 を 5 合 は 5 ら は	較差として評価する 目標高さ+直下層の 設計厚さから求まる	(IC来管規計場 精 、密) 層 場標手中い、がいよををす事中い、がいよををする。 (IC来管規計場 事中の、がいよををする。	現模の考え方 現模の考え方 現模と上の 上層を 上層の は は は 関 り 関 規 関 関 関 関 に に に り で り に り で り い び り い び り い び い り い び い り い り は り に り り に り に り に り り に り に り に り に	工事は、管理図等を とまず可能な知事を 関用混合物の総合の工 は、中のの対し、 は、中ののでは は、いいできる工が数と で に で は、 に い は で は で は い は い は い は い は い に れ に れ に れ に れ に れ に れ ら の に 、 の に 、 の に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に	

								現行	亍 (令和	3年版)											Ī	改定第	案(令和	14年版)				
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X) 中規模 小規模	格 値 10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均 ・中規模 小規模		基準	測	定 箇 所	単位: n	m 編	章	節	条 枝	番 工 種	測定項目	中規模	X) 小規模	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合は測定値の 平均 中規模 小規模	測定	基準	測定	箇 所	単位: <u></u> 摘 要
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	8	9	半たわみ性舗塗 (基層工)	ξ.T	厚さ幅	以上 以下 -9 -12 -25 -25	-3 -4	厚さは、1000㎡に 取して測定。ただ	し、幅は設計図書の 80m以下の間隔で源	を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	の工事は、管理図等を 作理が可能な子事を で表層用混合物の終 t 以上の場合が とは、中規模以、原理 とは、中のの とは、中のの に反映の施工が数日 医生する。	い使す 工結工連 版	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	3	9 半たわみ性舗装工 (基層工)	厚さ幅	-9 -25	以下 -12 -25	以上 以下 -3 -4 	さは、1,000㎡に取して測定。たた測点によらず延り定することができ	る。 所を用いた出来形管3 記定による測点の管3	平成大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大	工事は、管理工事等を 理事で、 理事で、 で理事で、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	10	半たわみ性舗を (基層工) (面管理の場合	l'a	Eさあるい は標高較差	-20 -25	-3 -4	お下で (3 (本来) 表 (本来) 本 (本来) (本来)	舗装工編 多点計 (金) シ点計 (金) シース を (金) シース を (ド 中規模と 中規模と 関)工事は、管理図等を 序理が可能な工事総 表層用混合物の総る。 大上の場、中のの規模の とはさいもきのの理模の 小に反映で施工が に反映で施工が数 して工種の施工が数	い 用 工 結 工	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工		(基層工) (面管理の場合)	厚さあるは標高較		-25	-3 -4	お形理を実合 (1) (1) (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	」に基づき基本を に基の他本基準に対 ・大変を変 を測なを を選手を を変 を を を を を を を を を を を を を		正事は、能なのは、 管な工事は、管理図事をい用の場合が、 を を を を を は いま いま いま いま で を を を を を を を を を を を を を を を を を を	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	8		半たわみ性舗 ^変 (表層工)	_	厚さ幅 平坦性	-7 -9 -25 -25	-2 -3 		こ1個の割でコアを だし、幅は設計図書 長80m以下の間隔で	で 8 3000 年 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	D工事は、管理公事を終する。 管理な事を終すすい。 では、一点では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	い使す 工結工連 版合	3 土木工事共通編	2一般施工	6 一般舗装工		(表層工)	厚さ幅	-7 -25		ー ー Bmプロフィル メーター	さは、1,000㎡毎1 採取して測定。た の測点によらず延 測定することがで 「3次元計測技術	きる。 「を用いた出来形管理 「定による測点の管理	中	正事は、管理工事を決しています。 理国内では、では、 理国が可えいでは、 理国が可えが、 関連のは、 にないができるが、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	
3 土木工事共通編	施	6一般舗装工	8	12	半たわみ性舗多 (表層工) (面管理の場合	- に	夏さあるい は標高較差 平坦性	-17 -20 -	直読式(足付 き)	お下て 3 (年本) 表 (本) 和 (本) 和 (本) 表 (本) 和 (本)	舗装工編 多点計 (金) シ点計 (金) シ点計 (金) シ点 (金) シ点 (金) シ点 (金) シ点 (金) シ点 (金) シ点 (金) シ点 (金) シ点 (金) シー (金) シー	ドロット (大)	D工事は、管理図等を 管理な工事を使な工事を使えたの場合を 表層用混合を 表層用混合を とは、いものものを したは、いものの、規模 にて施工が数日 に工種の で施工が数日 を対する。 おいては、、平坦性の	い用 工結工連	3.土木工事共通編	2一般施工	6 一般舗装工	3	(表層工) (面管理の場合)	厚さあるは標高較平坦性	差 -17	;	-2 -3 3mプロフィルメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下	おいて「3次代表の で「3次代表の で「3次代表の で「3次代表の で「3次代表の を実施し 対して、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	計測密度を満たする 表形管理を実施する。 直の規格値には計測を含まれている。 高負算の内側全る。計測を含まれている。 高負算の出する。計測を がである。 には計測をである。 高値と当該をである。 を表して評価下層ないである。 は標準厚さからない。 は特別厚さからない。 は特別厚に表しています。 は特別厚になっています。 は特別厚になっています。 は特別厚になっています。 は特別厚になっています。 は特別厚になっています。 は特別厚になっています。 は特別厚になっています。 は特別厚になっています。 は特別厚になっています。 ははいまする。	来 描	正事は、管理工事使に、管理工事使になって。 管理工事をい用の場合を表し、 日本のの規模の事態をしまい。 日本のの規模のの規模の目標ののが、 日本ののが、 日本ののが、 日本ののが、 日本ののが、 日本ののが、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本のでは、 日本ののでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本ののでは、 日本のでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののは、 日本ののが、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本のでは 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので	

								現行	亍(令和:	3年版)													改定	案(令	和4年版)				
								担相	各値						単位:mm								規格	4 値						単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	中規模)測定値 X)	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	測 定	基準	測	定 箇 所	ħ	窗 要	編	章	節条	枝番	工 種	測定項目	中規	の測定値 (X) 模 小規模	10個の測定値の平均(X10 *面管理のな合は測定値の 平均	身 測)	定	基準	測	定 箇 所	摘要
3 +	2	6	9	1	排水性舗装工	基準高く	以上 7 ±40	以下 ±50	以上 以下 - -	基準高は延長40m毎 し、道路中心線及び		工事規模の考中規模以上の	え方 の工事は、管理図	3-2-			2	6 9	1 排	非水性舗装工	基準高▽	以上 ' ±4		以上 以T — —	基準高は延道路中心線	長40m毎 l	に1ヶ所の割とし、 #部で測定。厚さん	工事規模の考:	え方 の工事は、管理図等	3-2-6-9
木工工事	般施	般舗装			(下層路盤工)	厚さ	-45	-45		厚さは各車線200má 起こして測定。 幅は、延長80m毎に	毎に1ヶ所を掘り	いた上での 省 い、基層およ	管理が可能な工 び表層用混合物 t以上の場合が	事をい の総使		木	般施施	般 舗 装		(下層路盤工)	厚さ	-4			各車線200m 測定。幅は	毎に1ヶ) 、延長80	所を掘り起こして Om毎に1ヶ所の割り	描いた上での い、基層及び	管理が可能な工事を 表層用混合物の総使 上の場合が該当する。	V)
共通編		I				幅	-50			定。 ただし、幅は設計図	書の測点によらず	る。 小規模工事	よとは、中規模以.	上の工		共通編	_ :	I.			幅	-50				30m以下	の間隔で測定する	小規模工事 事より規模は	とは、中規模以上の 小さいものの、管理	結
将曲						Ψ <u>Θ</u>	-50	-50		延長80m以下の間隔 できる。	1で側走することか	果を施工管理	に反映できる規 一工種の施工が	模の工		阿爾						-51	0 -50	_ _	「3次元計 要領(案) 方法を用い	」の規定	Eによる測点の管理	事をいい、同	に反映できる規模の 一工種の施工が数日 該当する。	
					III. I III OANIA							コア採取につ 橋面舗装等 等に損傷を与 は、他の方法	いて *でコア採取によ 与える恐れのある によることが出来	る場合						II. I. I.I. Adabata								版等に損傷をは、他の方法は	でコアー採取により 与える恐れのある場 によることが出来る。	合
土木		6 一般	9	2	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高く	7 ±90	±90	$ \begin{array}{c cccc} +40 & +50 \\ -15 & -15 \end{array} $	1. 3次元データに おいて「3次元計測 形管理要領(案)舗	技術を用いた出来 接工編 多点計測	₹ 中規模以上の ・ いた上での	の工事は、管理図 管理が可能な工事	等を描 事をい		土土	— ·	6 9 — 9 般		非水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±90	0 ±90	$ \begin{array}{c cccc} +40 & +50 \\ -15 & -15 \end{array} $	おいて「3 形管理要領	次元計測 (案)」		来 中規模以上 音 描いた上での	の工事は、管理図等 管理が可能な工事を	V >
工事共		舗装工			(面管理の場合)	厚さある は標高較		±90	$ \begin{array}{c cccc} +40 & +50 \\ -15 & -15 \end{array} $	技術(面管理の場合 形管理を実施する場 に規定する計測精度	場合、その他本基準 €・計測密度を満た	量が3,000 t 以小規模工事	以上の場合が該当す 『とは、中規模以』	する。 上のエ		事共		舗 装 工		(面管理の場合)	厚さあるV は標高較差		0 ±90	$ \begin{array}{c cccc} +40 & +50 \\ -15 & -15 \end{array} $	定する計測 測方法によ	精度・計 り出来用		計量が3,000 t 以 場 小規模工事	表層用混合物の総使 上の場合が該当する。 とは、中規模以上の	Ţ.
通編										す計測方法により出る場合に適用する。 2.個々の計測値の		果を施工管理事をいい、同	に反映できる規 一工種の施工が	模の工		編										計測値の	O規格値には計測:	果を施工管理	小さいものの、管理 に反映できる規模の 一工種の施工が数日 該当する	エ
										度として±10mmが含	まれている。	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	W∃ 7 0°												3. 計測は	設計幅員	の内側全面とし と算出する。計測:		W∃ 7 °⊌°	
										全ての点で標高値を 度は1点/㎡(平面 以上とする。	算出する。計測額															n ² (平面	i投影面積当たり)			
										4. 厚さは、直下層 の標高値との差で算		20													4. 厚さはの標高値と		層の標高値と当該 [出する。			
										5. 厚さを標高較差 合は、直下層の目標 高較差平均値+設計 さとの差とする。こ	₹高さ+直下層の橋 †厚さから求まる₹	馬													合は、直下 高較差平均	層の目標 値+設計 する。こ	きとして評価する: 票高さ+直下層の: 十厚さから求まる: この場合、基準高	票		
3	2	6 —	9	3	排水性舗装工	厚さ	-25	-30	-8 -10	評価は省略する。 幅は、延長80m毎に 厚さは、各車線200	ニ1ヶ所の割とし、	工事規模の考		3-2- 等を描				6 9	3 排	非水性舗装工	厚さ	-2	5 -30	_81e	幅は、延長	80m毎に	1ヶ所の割とし、 毎に1ヶ所を掘り		え方 の工事は、管理図等	3-2-6-9
木工事	般 施	般舗装			(上層路盤工) 粒度調整路盤工	幅	-50			り起こして測定。た 書の測点によらず延 で測定することがで	だし、幅は設計区 長80m以下の間隔	いた上での管い、基層およ	管理が可能な工事	事をい の総使		木 ;	般施施	般 舗 装		(上層路盤工) 並度調整路盤工	幅	-50			こして測定	。ただし ず延長8	、幅は設計図書 30m以下の間隔で	の 描いた上での 則 い、基層 <mark>及</mark> び	管理が可能な工事を 表層用混合物の総使 上の場合が該当する。	V)
共通編		I										事より規模は	なとは、中規模以 は小さいものの、	管理結		共通編		I.										里事より規模は 里果を施工管理	とは、中規模以上の 小さいものの、管理 に反映できる規模の	結 工
												事をいい、同 続する場合が													方法を用い	ることが	ぶできる。	続する場合が		車
					III. I III AANIA			T				等に損傷を は、他の方法	5でコア採取によ 与える恐れのある によることが出来	る場合る。						II. I II Abbilda ad								版等に損傷を は、他の方法に	でコア <mark>ー</mark> 採取により 与える恐れのある場 によることが出来る。	合
土木工	2 般施	6 一般舗	9	4	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さある は標高較		-63	-8 -10	1.3次元データに おいて「3次元計測 形管理要領(案)舗 技術(面管理の場合	技術を用いた出来 装工編 多点計測	₹ 中規模以上の いた上での領	の工事は、管理図 管理が可能な工事	等を描 事をい		土木	般	6 9 一 W 舗		非水性舗装工 (上層路盤工) 立度調整路盤工	厚さあるい は標高較差		4 -63	-8 -10	おいて「3 形管理要領	次元計測 (案)」	に基づき出来形	来 中規模以上 音描いた上での	ス万 の工事は、管理図等 管理が可能な工事を 表層用混合物の総使	l'
上事共通	工	装工			(面管理の場合)					形管理を実施する場 に規定する計測精度 す計測方法により出	合、その他本基準 ・計測密度を満た	量が3,000 t 以小規模工事	以上の場合が該当す よとは、中規模以.	する。 上のエ						(面管理の場合)					定する計測	精度・計 り出来用	+測密度を満たす	計量が3,000 t 以 場 小規模工事	及層所能日初の総及 【上の場合が該当する。 とは、中規模以上の 小さいものの、管理	I
編										る場合に適用する。	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	果を施工管理 事をいい、同	に反映できる規]一工種の施工が	模の工		編									2. 個々の	計測値の	の規格値には計測 まれている。	果を施工管理	に反映できる規模の 一工種の施工が数日	エ
										度として±10mmが含	まれている。	19E / W 30 L N	M 1 7 00												3. 計測は	設計幅員	の内側全面とした 29日する。計測:		×	
										全ての点で標高値を 度は1点/㎡(平面 以上とする。	:算出する。計測領															n ² (平面	i投影面積当たり)			
										4. 厚さは、直下層 の標高値との差で算		2													の標高値と	の差で算	-			
										5. 厚さを標高較差 合は、直下層の目標 高較差平均値+設計 さとの差とする	栗高さ+直下層の標	票													合は、直下	層の目標 値+設計	色として評価する: 票高さ+直下層の: †厚さから求まる:	票		

																				改定	案(令和	14年版)			
								規	格値					単位:m	m						規 棋	各 値			単位:mm
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目		*面管理の場合 は測定値の平 均 専 中規模 小規模		. 基 準	測	定 箇 所	摘要	編	章	節条	枝番 工	種 測定	正坝日		10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合は測定値の 平均 中規模 小規模	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	9	5	排水性舗装 (上層路盤 セメント 定処理工	工)	厚さ幅	以上 以下 -25 -30 -50 -50	0 -8 -10	厚さは、1000㎡ l 取もしくは掘り し、幅は設計図	起こして測定。た 書の測点によらず延	採だ長き 中放上のお。 中放上が3,000 中放上上が3,000 中放上上が3,000 中放上が3,000 中放上が3,模規工い場に強い場に強い場に強い場に強い場に強い場に強い場に強いる。 事果事続コ 橋に接を 等になるできます。	の工事は、管理図等 管理が可能な工事。 よび表層用混合物のか t以上の場合が該 事とは、中規模以上に はいさいいでものの、規模 関一工種の施工が数 該当する。	を 後す 工精工連 版合 なら かまり かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう おんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう しゅうしょう しゅうしょう はんしょう はんしょ はんしょう はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般 舗装 工	5 排水性舗装工 (上層路盤工) セメント (石) 定処理工) 安	厚さ幅	以上 以下 -25 -30 -50 -50	以上 以下 -8 -10 	取もしくは掘り起こして測定。たたし、幅は設計図書の測点によらず延り 80m以下の間隔で測定することができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管」	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を 中規模以上の工事は、管理図等を 拉描いた上での管理が可能な工事を い、基層及び表層用混合物の総使用 量が3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事 里来を施工管理に反映できる規模の工事とが、に同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により場合に、他の方法によることが出来る。	3-2-6-9
3 土木工事共通編	2 般施工	6一般舗装工	9	6	排水性舗装 (上層路盤 セメント 定処理工 (面管理の	工) (石灰) 安	厚さあるりは標高較差	-54 -63	-8 -10	おで (1 年	舗装工編 基本 自動 を	来測水準中規定 (1) 中規 (1) 中期	の工事は、管理図等 : で理が可能合物の当年が可混合物の当時に が表層用混合物が当する が表層が表現ではいました。 がとはいいもでもいました。 はいまでは、 はいまではななななななななななななななななななななななななななななななななななな	をい 更用 のエ 理結 のエ	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 9 9 般舗装工	6 排水性舗装工 (上層路盤工) セメント (石) 定処理工 (面管理の場合	は標	あるい高較差	-54 -63	-8 -10	理を実施する場合、その他本基準に 定する計測精度・計測密度を満たす 測方法により出来形管理を実施するも 合に適用する。	平 中規模以上の工事は、管理図等を	3-2-6-9
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	7	排水性舗装 (加熱アン 安定処理エ	ファルト	厚さ幅	-15 -20 -50 -50		厚さは、1000㎡ 取して測定。たた	だし、幅は設計図書 長80m以下の間隔で	採の測 中規定 中規 中 が い い い り に る い り 用 る 事 果 事 続 す 、 様 規 規 、 は を が り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 の 、 の	の工事は、管理図等 管理が可能な工事。 よび表層用混合物のか t以上の場合が該 事とは、中規模以上 はいさいいでのの、規模 関一工種の施工が数 該当する。	を発生 の理の日 末場の日 末場の日 末場の日 本場の日 本場の日 本場の日 本場の日 本場の日 本場の日 本場の日 本	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 9 分數編装工	7 排水性舗装工 (加熱アスフ:安定処理工)	ルト	厚さ幅	-15 -20 -50 -50	_5 _7 	測点によらず延長80m以下の間隔で 定することができる。 「3次元計測技術を用いた出来形管理		
3 土木工事共通編	2一般施工	6 一般舗装工	9	8	排水性舗装 (加熱アン 安定処理エ (面管理の	(ファルト)	厚さあるりは標高較多	-36 -45	-5 -7	おい管体の理解を 1 3 (1 (2 4 5 4 5 4 5 4 5 4 5 4 5 4 5 4 5 4 5 4	舗装工編 基本を演編 多づ地度を 多づ地度を 上海 1 と	来測水準中、大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大	の工事は、管理図等 : で工事が可能な事態で表層用混合物の当まの が表層用混合物が当まり 以上の場合規模以をはまいものもの まいもいものも規模 まいてきる規模 は、できる。 で。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	をい 更用 のエ 理結 のエ	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8 排水性舗装工 (加熱アスフ:安定処理工) (面管理の場合	ルトは標	あるい高較差	-36 -45	_57	理を実施する場合、その他本基準に 定する計測精度・計測密度を満たす 測方法により出来形管理を実施するも 合に適用する。	平規模以上の工事は、管理図等をいいた上での管理が開発では、整定工事総での管理が開発を使用いた基度をでいる。 小規模工事とは、中規模以上の理等とは、中規模以上の工事果を施工管理に反映でものの規模は小さいものの、規模は小さいものの規模は小さいものの規模は一個では、対象を関係では、対象を対象を対象を対象を対象といい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。	3-2-6-9

現行(令和	1 12 1	改定案(令和4年版)	
規格値 10個の測定値 の平均(\(\)(\(\)(\)(\)(\)(\)(\)(\)(\)(\)(\)(\)	単位: mm 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要	規格値	単位: ㎜
以上 以下 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1000㎡に1個の割でコアを採 取して測定。ただし、幅は設計図書のいた上での管理が可能な工事をい 測点によらず延長80m以下の間隔で測 定することができる。 エ事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた上での管理が可能な工事をい 、基層および表層用混合物の総使 用量が3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合	3 2 6 7	77用 工結工連 床
3 2 6 9 10 排水性舗装工(基層工) 木木 上 般 施 舗	は、他の方法によることが出来る。 1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 おいて「3次元計測技術を用いた出来 地規模以上の工事は、管理図等を描 いた上での管理が可能な工事をい 技術 (面管理の場合)」に基づき出基準 量が3,000 t以上の場合が該当する。	1. 3 次元データによる出来形管理に 1. 3 次元計測技術を用いた出来 1. 3 次元計測技術を用います 1. 3 次元計算 1. 3	い 用 工 結 工
3 2 6 9 11 排水性舗装工 厚き -7 -9 -2 -3 水 施 舗 工 装 工 幅 -25 -25 - - 工 基 工 工 (๑) 2. 4mm以下 直続式(足付き) (๑) 1. 75mm以下	電は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1000㎡毎に1個の割でコアを 採取して測定。ただし、幅は設計図書 の測点によらず延長80m以下の間隔で 測定することができる。 エ事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する。コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3 2 - 6 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 2 - 3 機	い用 工結工連 床合
共 工 直読式(足付き)	T事規模の考え方	3	い用工結工連

								現行	亍 (令和	3年版)												改定	案(令和	114年版)		
								規	格値					単位:	mm							規	格値			単位:mm
編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	個々の測定値 (X)	側走他の平均	測 定	基準	測	定 箇 所	摘要	編	章	節	条	枝番 工	種	測定項目	個々の測定値 (X)	測定値の平均	測定基準	測 定 箇 所	摘要
3	2	6	10	1	透水性舗装工			中規模 小規模 以上 以下	世 中規模 以上	基準高は片側延長4	40m毎に1ヶ所の害	削工事規模の考	·え方	3-2-6-10	3	2	6	10	1 透水性舗	装工		中規模 小規模 以上 以下	中規模 以上	基準高は片側延長40m毎に1ヶ所の		3-2-6-10
土木工事共通編	一般施工	一般舗装工			(路盤工)	-	基準高▽厚さ幅	$ \begin{array}{c c} \pm 50 \\ t < \\ 15cm \\ \end{array} $ $ \begin{array}{c c} t \ge \\ 15cm \\ \end{array} $ $ -45 \\ -100 \\ $		で測定。 厚さは、片側延長20 起こして測定。 幅は、片側延長80m ただし、幅は設計区 延長80m以下の間隔 できる。 ※歩道舗装に適用す	毎に1ヶ所測定。 図書の測点によらす 系で測定することが	いい、 上基が、 いい、用る。 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、		に & 使す	土木工事共通編	一般施工	般		(路盤工)	基準高▽厚さ幅	$ \begin{array}{c c} \pm 50 \\ t < \\ 15 \text{cm} \end{array} - 30 \\ t \ge \\ 15 \text{cm} $ $ - 45 \\ - 100 $	-10 -15 -	で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1ヶ所掘起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1ヶ所測定。 ただし、幅は設計図書の測点によら延長80m以下の間隔で測定すること。 できる。 ※歩道舗装に適用する。 「3次元計測技術を用いた出来形管要領(案)」の規定による測点の管方法を用いることができる。	い、基層及び表層用混合物の総使量が3,000 t以上の場合が該当する。 が、小規模工事とは、中規模以上の が事より規模は小さいものの、管理果を施工管理に反映できる規模の事をいい、同一工種の施工が数日続する場合が該当する。 コアー採取について	い用工結工連
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	10	2	透水性舗装工 (路盤工) (面管理の場合	_	基準高▽ 厚さあるい は標高較差	$\begin{array}{c} t < & +90 \\ 15 \text{cm} & -70 \\ \hline t \geqq \\ 15 \text{cm} & \pm 90 \\ \hline t < & +90 \\ 15 \text{cm} & -70 \\ \hline t \geqq \\ \pm 90 \end{array}$	+50 -15 +50 -10	形管理要領(案) 技術(面管理の場合 形管理を実施する場 に規定する計測方法により す計測方法によりる場合に適用する。	別技術を編していた出来る。 の主義とは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のに、 のでは、 のに、 のでは、 のに、 のに、 のに、 のでは、 のに、 のに、 のに、 のでは、 のに、 のに、 のに、 のに、 のに、 のでは、 のに、 のに、 のに、 のに、 のに、 のに、 のに、 のに	工・中	え方 の工事は、管理図等を 管理が可能なかの総 は以上の場合が該当 とは、中規模以上管理 は小さきる規模が はに反映で施工がある。 はいてで施工がある。 はいていたできる。 はいていたでをしてが がは、 である、 がは、 にていたでをしてが はいていたでをしてが はいていたできる。 にていたでを、 にていたでを、 にていたでを、 にていたでを、 にていたでを、 にていたでを、 にていたでを、	3-2-6-10 を描 い & 使 4 す) 工 里結) 工	3 土木工事共通編	2一般施工	般舗	110	2 透水性舗(路盤工(面管理		基準高▽ 厚さあるい は標高較差	$\begin{array}{c} t < & +90 \\ 15 \text{cm} & -70 \\ \hline t & \geq \\ 15 \text{cm} & \pm 90 \\ \hline t < & +90 \\ 15 \text{cm} & -70 \\ \hline t & \geq \\ 15 \text{cm} & \pm 90 \\ \hline \end{array}$	+50 -10 +50 -15 +50 -10 +50 -15	形管理要領(案)」に基づき出来形理を実施する場合、その他本基準に定する計測精度・計測密度を満たす測方法により出来形管理を実施する。 合に適用する。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を 管いた上での管理が可能な工事を ない、基層及び表層用混合物の総使 計量が3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上で 事より規模は小さいものの、管模の 事を配工管理に反映できる規模は 素が表現である。 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	い 用 工 結 工
3 土木工事共通編	2一般施工	6 一般舗装工	10		透水性舗装工 (表層工)	-	厚さ幅	-9 -25		幅は、片側延長80m 測定。 厚さは、片側延長 アーを採取して測定 ただし、幅は設計8 延長80m以下の間隔 できる。 ※歩道舗装に適用す	毎に 1 ヶ所の割っ 200m毎に 1 ヶ所 = 5 5 3書の測点によらっ 著で測定することが	中た 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	の工事は、管理図等事を管理図等事を記せ、 管理が可能な合物をはているという。 でび表層用混合が該は、中規ののきるには、中規ののきるが、 はいいいのきるが、 はいいで施工が、 はいいで施工が、 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	い & 使 す	3 土木工事共通編	施工	一般舗装工		3 透水性舗 (表層工)	厚さ幅	-9 -25	-3 -	アーを採取して測定。 ただし、幅は設計図書の測点によら、 延長80m以下の間隔で測定すること: できる。 ※歩道舗装に適用する。 「3次元計測技術を用いた出来形管 要領(案)」の規定による測点の管: 方法を用いることができる。	中規模以上の工事は、管理図等を かた上での管理が可能な工事を が、基度及び表層用混合物の総使 量が3,000 t 以上の場合が該当する。 が、規模工事とは、中規模以上で理 事より規模は小さいものの、規模の 事と施工管理に反映できる規模り 事をいい、同一工種の施工が数日 機力 をいい、同一工種の能工が数日 でいい、同一工権の能工が数日 でいい、同一工権面によび をいい、同一工経験について 「個面舗装等でコアー採取により 版等に損傷を与える恐れのある場 は、他の方法によることが出来る。	い用工結工連床合
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	10	4	透水性舗装工 (表層工) (面管理の場合	_	厚さあるいは標高較差	-20	-3	形管理要領(案) 技術(面管理の場合 形管理を実施する場 に規定する計測方法により す計測方に適用する。	別技術を編し、 動装工・ の高計出の には、 の高計出の には、 には、 の一、 の一、 の一、 の一、 の一、 の一、 の一、 の一	E	の工事は、管理図等等を 管理が可能ななので はび表層用混合がが は以上は、中規模以、管 は、中規模、管 したに反映で施工を して、 を はれてののの規模の で を はれてののの規模の で を はれて を はれて を は に を は に に を は に を は に を が が さ が さ が さ が さ が さ が さ が さ が さ が さ	に 放 使 う 工 担 結 う 工 工 打 こ 工 に に に に に に に に に に に に に	3 土木工事共通編	施	般舗	10	4 透水性維 (表層工 (面管理		厚さあるいは標高較差	-20	-3	形管理要領(案)」に基づき出来形理を実施する場合、その他本基準に定する計測精度・計測密度を満たす測方法により出来形管理を実施する。 合に適用する。	を中規模以上の工事は、管理図等を がた上での管理が可能な工事を が、基層及び表層用混合物の総使 計量が3,000 t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上管理 事より規模は小さいものの。 事より規模は小さいものの。 事果を施工管理に反性できる規模 情報にある。 を を を を を を を を を を を を を	い 用 工 結 工

								現行	行(令和	3年版)											改定	案(令和	四4年版)				
								規	格値					単位:	mm						規	格値					単位:mm
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目		10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	測定	基準	測	定 箇 所	摘要	編	章	節 条	技番	工、種	測定項目		10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均		· 基 準	測	定 箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	11		グースアス 舗装工 (加熱アス 安定処理工	ファルト	厚さ幅	以上 以下 -15 -20 -50 -50	-5 -7	幅は、延長80m毎に 厚さは、1000㎡に1 取して測定。ただし 測点によらず延長80 定することができる	個の割でコアを持 、幅は設計図書の m以下の間隔で進	乗りい、 中規上基本 中規上基本 中に、基が 中に、基が 中に、基が 中に、基が 中に、基が 中に、基が 中に、基が 中に、基が 中に、基が 中に、場で、合い、場で、合いで 等にでいる。 では、これで では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	の工事は、管理図工 管理が可能な で で し し し し し し し し し し し し し し し し し	事の該 上管模数 い使す 工結エロ連 ・ 毎年の日 版等	3 土木工事共通編	般施	-	新	ゲースアスファル 謝装工 (加熱アスファル 定処理工)	厚さ	以上 以下 -15 -20 -50 -50	-5 -7	さは、1,000㎡に 取して測定。たは 測点によらずでで ですることができる次元計測技 要領(案)」に 施する場合は、「 精度・計測密度	だし、幅は設計図書 長80m以下の間隔できる。 術を用いた出来形管 基づき出来形管理を	採の側 理実削よき コ 版等 中規た 基 3 規 9 位 7 位 7 位 7 位 7 位 7 位 7 位 7 位 7 位 7 位	の工事は、管理図等 管理が可能な工事を 表層用混合物の総 人上の場合が該当する。 とは、中規模以上の 小さいものの、管理 に反映できる規模の 一工種の施工が数日 該当する。	7. 用工精工車 未
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	11	2	グースアス (加装 アス (加熱 アス 安定処理工) (面管理の)	ファルト	厚さあるいは標高較差	-36 -45	-5 -7	1. い管体理 (単純 を	技術を経まれた。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 ド 中規を 中規模ののおより 中規模ののおより ・ 中規を ・ 中間を ・ 中間を ・ 中間を ・ 中間を ・ 日間を 日間を 日間を 日に 日に 日に 	の工事は、管理図等 理が可能な工事を び表層用混合物の t 以上の場合が該当 とは、中規模以上 にいものの、管 にに反映できる規 リー工種の施工が数	い 総使 当す の工 理結 の工	3 土木工事共通編	般施	6 11	舒安	(一スアスファル i装工 (加熱アスファル 定処理工) (面管理の場合)	は標高較差	-36 -45	-5 -7	おいて 東海 は かっぱい で は かっぱい で は かっぱい で ま で は かっぱい で ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	一」 一」 一」 一」 一」 一」 一」 一、主、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、	来管規計場 中規を基本 中規を基本 中のでは、	の工事は、管理図等を 管理が可能な工事を収 表層用混合物の総使用 人上の場合が該当上のよ とは、中規模以上のエ 小さいものの、管理 に反映できる規模 して工種の施工が数日連	3-2-6-11
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	11		グースアス 舗装工 (基層工)		厚さ幅	-9 -12 -25 -25		幅は、延長80m毎に 厚さは、1000㎡に 1 取して測定。ただし 測点によらず延長器 定することができる	個の割でコアをお 、幅は設計図書の m以下の間隔でま	深り割り (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	の工事は、管理国工等に、 管理な合物に はび表層用混合を はび以上、中規模の、規 はいいででは、 はいいででは、 はない、 はない、 はない、 はない、 はない、 はない、 はない、 はな	事の核 上管模数 中の では、	3 土木工事共通編	施工	一般舗装工	翻	ゲースアスファル 接工 (基層工)	幅	-9 -12 -25 -25		さは、1,000㎡に 取しによりでは ですることができました。 「3飯では、一個では、 「3飯では、 「3飯では、 「13年では、 「13年では、 「13年では、 「13年では、 「13年では、 「11年では、 「1日では 「1日では 「1日では 「1日では 「1日では 「1日では 「111年でも 「111年でも 「111年で 「111年で 「111年で 「111年で 「111年で 「111年で 「111年で	長80m以下の間隔できる。 術を用いた出来形管 基づ要領に規定する計 連続でする計測方法に 実施することがで	採の側 理実側よき 描いよいまなをいる 描いよいまなをいる 一種に基がよりをでいる 一種にしている。 一種にしている。 一種にしている。 一種にしている。 一種にしている。 一種にしている。 一種にしている。 一種にしている。 には、でいる。 でいる。 でい。	の工事は、管理国等を で理事を使え 表層用混合物の総合。 ととは、中ものの規模の に反映できる規模、上の場合で施工が数日 で施工が数日 で施工が数日 で施工が数日 で施工が数日 で施工が数日 で施工が数日 で施工が数日 でいて でおって では、より にないまのの にないまのの にないまのの にないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 にないまの。 ではない。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないまの。 ではないない。 ではないない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではない。 ではないなない。 ではない。 ではないな。 ではな	7. 用 工店工車 末合
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	11	4	グースアス 舗装工 (基層工) (面管理の:		厚さあるいは標高較差	-20 -25	-3 -4	1. 3次元3候2世紀 (1) 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	技術を揮 タ点計画 大阪 大阪 大阪 大阪 大阪 大阪 大阪 大	 ド 中規上で 中規上を 中規上を 中規上を およる おより 原 原 所 所<!--</td--><td>の工事は、管理図等 理が可能な工事を び表層用混合物の t 以上の場合が該 をは、中規模以上 いさいものの規 に反映できる規 リー工種の施工が数</td><td>い 総使 当す の工 理結 の工</td><td>3 土木工事共通編</td><td>般施工</td><td>般</td><td>舗</td><td>「一スアスファル i装工 (基層工) (面管理の場合)</td><td> 厚さあるいは標高較差</td><td>-20 -25</td><td>-3 -4</td><td>おで (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)</td><td>して基のでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は</td><td>来管規計場 特</td><td>の工事は、管理図等を 管理が可能な工事をい 表層用混合物の総使用 人上の場合が該当する。 とは、中規模以上のエ いさいものの、管理 に反映できる規模の工 工種の施工が数日連</td><td>3-2-6-11</td>	の工事は、管理図等 理が可能な工事を び表層用混合物の t 以上の場合が該 をは、中規模以上 いさいものの規 に反映できる規 リー工種の施工が数	い 総使 当す の工 理結 の工	3 土木工事共通編	般施工	般	舗	「一スアスファル i装工 (基層工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-20 -25	-3 -4	おで (本)	して基のでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	来管規計場 特	の工事は、管理図等を 管理が可能な工事をい 表層用混合物の総使用 人上の場合が該当する。 とは、中規模以上のエ いさいものの、管理 に反映できる規模の工 工種の施工が数日連	3-2-6-11

							Ę	見行	(令)	和3年	年版)																	改定	至案	(令和	口4年	版)								
章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測 (X)	定値	10個の測定 の平均(X1 面管理の は測定値の 均	0) 場合)平	測	定	基 準		測 兌	包 箇 所		単位: ㎜	編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目		々の測定((X)	が *面 合は	の測定値 均(<mark>X</mark> 10) 管理の場 測定値の 平均		測	定	基	準		測定	箇 所		単位: mm
2一般施工	舗装工 6一般	11	6	グースアン 舗装工 (表層工) グースアン 舗装工 (表層工) (面管理の	・ファルト	厚さ 幅 平坦性 厚さ標 高較 単 単性	以上 月 -7 -25 -	以下 -9 -25 3 () () -20		下 「	測点によことが 別定することとが 3、「3で理せ、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 では、	宿在た延で 夕計3)場る精りる 値が 幅値平 下でにだ長き 原発 原発 原発 の出 よ技装) 合・来 規ま の算段 の出	個、m。	で図隔 「理出計出基満施 測 し測り 該を書で 「本語・一・「い用る 事果事続 コ に他 維之事・いい用る 事果事続 コ に他 維之事・・「大、量。小」なををす ア橋排の 雑念事・・「大、量。小」なををす 維省 「本語・「大、量。小」なををす 維省 「本語・「大、量。小」なをす 維省 「本語・「大、量。小」なをす 維省 「本語・「大・「一」、「一」、「一」、「一」、「一」、「一」、「一」、「一」、「一」、「一」、	E 基 別の	工理条以 といこ一当 てコるこ いぶ方工理承以 にさ反工当 てコるこ いぶ方工理承以 にさ反工す 「探れた」 には、南語泉場 規のき施 にあ来 平 管む混号 模のき施 にあ来 平 管む混号 模のき施 にあ来 平 管む混号 模のき施 にある 坦 理工物が 以、規が 世代が はいました。 いん はいっしょう にん はいっしょう はいっしょう はいっしょう はいっしょう はいっしょう はいっしょう はいっしょう はいっしょう はいい はいが はいり 場の はいり 場が はいり	等事の該 上管模数 床合 の 等事の該 上管模数をを総当 の理の日 版は 項 をを総当 の理の日描い使す 工結工連 等、 目 描い使す 工結工連	3-2-6-11	工事共通編 3 土木	2 一般施工	6 一般舗装工 6 一般舗装工	11		グースアス 舗装工 (表層工) グースアス (表層工) (面管理の	、ファルト	厚さ 幅 平坦性 では標高較差 平坦性	以	提集 小規 以下・7 -9 25 -2! 17 -20	- 以上 - 2 - 3mブ (σ)2 直読: き) (σ)1 下	- 以下 - 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	幅さ採の測 「要施精りる 1 お形理定測合 2 度 3 全度以 4 の 5 、、し点す 次(る・来 3 て理実る法適 個し 計の12と 厚高 厚	1、000m定らと 測」は密理 デ次(る精りる)計和 設標所。 、の 標準の で、 (の) 標 で、 (の) 標 の) は で (の) に らと) 測」は 密理 ・ (の) で、 (の) 標 ・ (の) に らと) 測 は で (の) に らと) 測 は で (の) 標 ・ (の) 標 ・ (の) 標 ・ (の) に らと) ※ (の) に らと) ※ (の) に に に に に に に に に に に に に に に に に に に	骨のずが 技に、度を	の、00	では 出発を引いて 出来管本計で と 下れとなど は、 面 では がった と で は が で	を皆で 里英則と に	- 上層のの は は で と で と で と で と で と で と で と で と で と	てアアるることは来れが出来ない映種が用場いい映種がは、現代のは、では来れが出来る。 管な物規のもでのは、現代の対規のもでのの。 マリー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー	等を使る。FPEな 5 55 E 3 FE なる。FPEな 5 55 E 3 FE なる。FPEな 5 55 E 3 FE なる。FPEな 5 FE ない用 工結工連 床合 項 をい用 工結工連	2-6-11
	般		1	コンクリー(下層路盤		基準高▽厚さ幅	±40 = -45 -50		- -15 -	高さ 基しさこ所の	は各車線200 して測定。 「の割に測定。	設計厚 40 m 毎 l kおよび m 毎 に だに だ を で で で で で で で で で で で で で で た だ で で で で	こ 1 ヶ 所の定端は 4 ヶ 所 別 据 1 ヶ 所 別 据 2 長 80 m 毎 に 計 間 3 い 以 下 の に か い に か い に か い に か い に か い い い い い い	高	規模のは、 と、	1 層あたりの施 とする。 表層及び基層 2 合物の総積が値2.0 場合で規格もに、ついる。 (X10)にたの場合でととしたのは、 (X10)にたの場合では、 (M10)にない。 (M10)には、 (M10)には (M10)には (M10)に	の最が500 加が500 100 10目の満厚測 床場 無場では、 からでは、 のもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもで	3-2-6-12		2 一般施工	6 一般舗装工	12	1	コンクリー(下層路盤		基準高▽厚さ 幅	±	40 ±50 -45 -50		— —15 —	さ 基しはし割点す 丁要施精 でにる 3領す度 の 高道各測測よこ 次(る・	差 は路事に定らと 元衆計・ 延心20幅を延で 測」は密する。ずが 計)合測は密	る。 長40mm 様A0mm 板でに 長80mm 大し80mm をづ要満た 乗端 乗端 大き 技に、度 を で要満た	に1ヶ海を1年に1ヶ海を1年に1ヶ海を1年に1ヶ海を1日下 いた来 規制 にまま にまま にまま にまま にまま にまま にまま にまま にまま にま	則 注 に に に に に に に に に に に に に	エ が ア t 満 以ばのけデの コ 版 現規の規フ満 さのら均ば夕均 一面に のらりばりり 一面に	10mm以上に 10mmに 10mm以上に 10mmに 10mm以上に 10mmに 10m	層の総称工のでは、10個では、10Mでは、1	このが50㎡ に対している に対している に対している に対している いっぱい にがっている いっぱい いっぱい いっぱい はい	2-6-12

	現行(令和3年版)																					改分	三案(令和	口4年間	页)								
F	2 11 11 11 11 11 11													n							. 	格値							単位:mm				
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	個々の測3 (X)	定値	10個の測定値 の平均(X10) ・面管理の場合 は測定値の平 均	測	定基	: 準	測	定 箇	i 所	摘要	編	章	節	条	枝番 工	種	測定項目	履々の測定(X)	10個の測定値		別 定	基準		測 定	箇 所	摘要
3 土木工工事共通編編	般施工	6 一般舗装工	12	2	コンクリー (下層路盤 (面管理の:	工)	基準高▽厚さあるいは標高較差	以上 以 ±90 ±	<u> </u>	中規模 以上 +40 -15 +40 -15 +40 -15 -15 -15	1 お形枝形にする 2 度 3 全度以 4 標 にはと を下的値 ではと を で	元案のす測よす 測皿 計高(直差 高の+計) 場合場を出 の	「	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	、1層あたり 上とする。 は、表層及び ト混合物の約	び基層の加熱 総使用量が500	3-2-6-12	3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	112	2 コンクリー (下層路盤 (面管理の	盤工)	基準高▽ 厚さあるい は標高較差	中規模 小規 以上 以了 ±90 ±9 ±90 ±9	+40 +50 -15 -15	1 1 お形理定測合 2度 3 全度以 4 の 5 合高さ次「要施計に用 々て 測点/ン 5 信 厚、差の 1 は上 標 は較と 2 では上 標 1 は較と 2 では上 2 で 2 で 3 全度以 4 の 5 合高さ	3 顔す測よす の士 はで/る はと を下均と次(会特度出。 測師 計画(回 直差 高の+3元) 一直差 高の+3元計) 一直	こはない。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	来管規計場 精 、密) 層 場標高中が、アモ満 中の規フ満 中の規フ満 中の規フ満 中の規ラット かっぱ	見模とは、1層 00㎡以上とす 見模とは、表原 7ァルト混合4	る。 層及び基層の加熱 匆の総使用量が50	:
3 土木工事共通編	施工	6 一般舗装工	12	4	コンクリー(粒度調整)(面管理の	路盤工)	厚さあるいは標高較差	-55 -	-66	-8	評 1 お形技形にする 2 度 3 全度以 4 標 にはと を	る 一元案のす測よす 測mm 計高(直差 高の+ に測嫌の場所は	所を用いた出3 工編 多点井計 に基づき基準 にとの密理を実 計形管 をして、 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 し、測りり に測りり に測りり に測りり に調り に調り に調り に調り に調り に調り に調り に	こ 来 中規模とは以外では、 一大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	、1層あたり 上とする。 は、表層及び ト混合物の約	び基層の加熱 総使用量が500	3-2-6-12	3 土木工事共通編	2一般施工	6 一般舗装工	112	4 コンクリー (粒度調素 (面管理の	整路盤工)	厚さあるいは標高較差	-55 -6	6 -8	お形理定測合 2度 3全度以 4の 5合は 2度 3全度以 4の 5合は 2度 3全度以 4の 5合は 2度 3全度以 4の 5合は 2度 3を	元3領す側よす の土 はでくる はと を下均・一元案場度出。 測加 計高(直差 高の牛) 一元案場度出。 測加 計高(直差 高の牛) で 較目散する。 「ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	理は と	来管規計場 精 、密) 層 場標中規の規計場 精 、密) 層 場標	見模とは、1層 00㎡以上とす 見模とは、表層 7ァルト混合物	層及び基層の加熱 物の総使用量が50	: 00
3土木工事共通編	施 正	6 一般舗装工	12	5	コンクリー (セメント 腰青)安定:	(石灰・	厚さ幅	-25 - -50	-30		幅は、延長80 厚さは、1,00 採取もしくは し、幅は設計	m毎に1点 00㎡に1個 掘り起こし 図書の側点	園の割でコア₹ して測定。たた 点によらず延む	以上の割合ではないにないではないではないではないではないではないできる。 対象が10個 対値は プア採取について	、 上表 最するび総積が を 最大 の の の の の の の の の の の の の	基所 を	3-2-6-12	3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	112	5 コンクリー (セメン 瀝青)安元	ト(石灰・	厚さ	-25 -30 -50		厚さは、 を採取も だし、幅	1,000㎡に しくは掘り は設計図	こ 1 ヶ所の割とし、 : 1 個の割で 1 で り起こして り起こしには 事の測定することが まって 測定することが	一た延が 中21,00模ァあ さんな平ば数値 ア面損 規2関2関2関2はのれタ均 コ橋に 一面損	模しは、1上を ののがは、 は、上とを を は、現た は、現た は、現た は、現た は、現た は、現た は、現た は、現た は、現た は、のではという は、ののい。 は、いい。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	る。 をび基層の加熱ア り終使用量が500 面積が2,000㎡未 定値が10個に9個 直を満足しな庁組 こ、10個の測定して でついて厚さ値ので でのは関ででで では、100ででで では、100ででで では、100でででで では、100でででで では、100でででで では、100でででです。 では、100ででは、100ででです。 では、100では、100ででです。 では、100では、100ででは、100ででです。 では、100では、100では、100では、100ででです。 では、100では、1	t t

								現行	宁 (令和	口3年	版)															改定	案(令和	4年版))						
								規	格値								単位:mm									規格	1 値								単位:mm
編	章	節条	枝番	I	1	重	則定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定 の平均(X10 *面管理の場 は測定値の ³ 均)) 合	測 定	匡 基	準	測	定 箇	所	摘 要	編	章	節	条 右	支番	工 種	測定項目		の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均	測	定	基 準		測	定 筐	節 所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 12 般舗装工	6	(セメ 瀝青)	リート舗装シント (石) 安定処理コース (大) (石) (石) (石) (石) (石) (石) (石) (石) (石) (石	灰・ こ)	さあるい標高較差	中規模 小規模 以上 以下 -55 -66	世 中規模 小規 以工 -8	下 1お形技形にする 2度 3全度以 4の 5合高 よい管準管規計場 と . ては上 . 標 . は較	て『理(理定測合 個し 計の1と 『高 『、差を『理(理定測合 個し 計の1と 『高 『 文を『 本で』に、 の 標層値 と 正平 の で 別点点 か で 標層値 と で で で で で で で で で で で で で で で で で で	計測技術を) 舗装工編場合) 」に 場合)」に る場合、その 精度・計測 り出来形管理	田い <u>多に</u> ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	工事規模の考中規模とは、 が2,000ポ以上 小規模とは、 スス満あるいは、 満。	1層あたり とする。 表層及び基原 合物の総使原	層の加熱ア 用量が500 t	3-2-6-12	3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	12		コンクリート舗装工 (セメント (石灰・ 歴青) 安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	以上	: 以下		お形理定測合 2度 3全度以 4の 5合い管をす方に と 3では上 標 に で 期点点す さ値 ま直 さ直 さ直 さ を下げた かっかった かっかっかった かっかった かっかった かっかった かっかった かっかった かっかった かっかった かっかった かっかった かっかっかった かっかった かっかっかった かっかっかった かっかった かっかった かっかった かっかった かっかった かっかっかった かっかった かっかった かっかった かっかった かっかった かっかった かっかっかっかっ	欠(る者) D(な) 大(る者) D(な) 大(な) を) を)	基の密理を実になる。 と計たのとまたは、 と計たのとまたは、 と計たのとまた。 と計たのような 値にいる 面の当ととなる。 という はんしょう はんしょく はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ	出形にする 則 し則り 咳 るの来管規計場 精 、密) 層 場標が アモ満	中規模とは、 2,000㎡以上 小規模とは、 スファルト混	1層あた とする。 表層及 混合物の	とりの施工面積 び基層の加熱 総使用量が500 積が2,000㎡未	3-2-6-12
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 12 般舗装工	7		リート舗装ファルト		真を	-9 -12 -25	-3	大幅 厚採 の測	<u>の差とする</u> 、延長80m9 は、1,000m して測定。7	毎に1ヶ所の パに1個の割 ただし、幅に 延長80m以1	の割とし、 でコアを よ設計図書	工事規模の出来。 事規模のでといる、 でと、2位のでは、 では、 では、 でと、 でと、 でと、 でと、 でと、 でと、 でと、 でと	1屋するのでは、 1 を 1 を 2 を 2 を 2 を 2 を 3 を 3 を 4 を 4 を 4 を 5 を 5 を 6 を 6 を 6 を 6 を 6 を 6 を 6 を 7 を 7 を 7	アナック アナック アナック アナック アナック では できまる かいがらの t にりの はいり にり は の が 足 個の が 足 個の が 足 個の が 足 個の が 上 個 に り 場 は い は よ 場 は に い ま は よ 場 に い ま は ま な ま な ま な ま な ま な ま な ま な ま な ま な	3-2-6-12	土木工	2 一般施工	6一般舗装工	12	7 = 7 R	コンクリート舗装工 (アス ファルト中間 圏)	厚を	-9	-12 -25	-3	幅は、延長8 厚さは、1,0 を採取して》	0m毎に1 00㎡に1個 則定。ただ よらず延長	し、幅は設計 80m以下の間	──世間隔 中が小ス未満。厚以ばのけデの・コークでは、コークでは、コークでは、100mmでは、100m	・規模の は、1,000 は、1,000 は、2,000 は、3,000 は 3,000 は 3,000 は 3,000 は 3,000 は 3,	層と履物型の発生の)の表目のコースを関すと、別をものの面の関値ににた満なの下の恐怖を、つだのいであれ	使用 500 t	3-2-6-12
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 12 - 般舗装工	8	(ア <i>ス</i> 層)	リート舗装スファルト	中間	さあるい標高較差	-20 -27	-3	お形技形にする 2度 3全度以 4の 5合高い管衛管規計場 ・と ・ては上 ・標 ・は較	て理(理定測合 個し 計の1と 厚高 厚、て野面をす方に 々て 測点点す さ値 さ直を変えたは 々て 測点点す さ値 さ直 であった(型の) が 計高(直差 高の 標層	計)場合 動 神 力場度 力場度 力場度 力場度 力場度 力場度 力場度 力場度	明い <u>多の</u> 他度を は、 正の密度を は、 で、当 を見いた出・ 出・ 出・ は、 で、当 で、過 で、当 で、過 で、ま で、ま で、ま で、ま で、ま で、ま で、ま で、ま		1層あたり とする。 表層及び基原 合物の総使原	層の加熱ア 用量が500 t	3-2-6-12	土木工	2一般施工	6一般舗装工	12		コンクリート舗装工 (アスファルト中間 層) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差		0 -27		お形理定測合 2度 3全度以 4の 5合い管をす方に と ては上 標 に で 瀬点点す さ値 さ直 さ直 さ を下げて 3 はど を下げて 4 は 5 を下げて 5 はど を下げて 5 はんじん 5 を下げて 5 はんじん 5 を下げて 5 を下がっまったい 5 を下がっまっかったい 5 を下がっまっかっかったい 5 を下がっまっかったい 5 を下がったい 5 を下がっかっかったい 5 を下がっかっかったい 5 を下がったい 5 を下がっかっかったい 5 を下がっかっかったい 5 を下がっかったい 5 を下がっかったい 5 を下がっかったい 5 を下がっかったい 5 を下がっかったい 5 を下がったい 5 を下がったい 5 を下がっ	欠(る情)の名 計画の	基の他度を実 はこ。面 きまた とまた はんしょう とまた はんしょう 面 きまた りょう はんしょう はんしょく はんしょ はんしょく はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ	出形にする 則 し則り 咳 るの来管規計場 精 、密) 層 場標 ロシルラオ。	中規模とは、 2,000㎡以上 小規模とは、 スファルト 表満あるいは	1層あた とする。 表層及 混合物の	とりの施工面積 び基層の加熱 総使用量が500 積が2,000㎡未	3-2-6-12

								現行	亍(令和:	3年版)								改定	案(令和	14年版)		
								規	格値			単位:m	m					規:	格 値			単位:mm
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	· 測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要	編	章	節条	枝番 工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(<u>X</u> 10) *面管理の場 合は測定値の 平均	測定基準	測 定 箇 所	摘要
								中規模 小規模 以上 以下	草 中規模 小規模 以上 以下	-								中規模 小規模 以上 以下	中規模 小規模 以上 以下			
3 土 木	2 一 般	6 一 般	12	10	コンクリー		厚さあるい は標高較差	-22	-3.5	1.3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)舗装工編 多点計測	マ 中規模とは、1層あたりの施工面積	3-2-6-12	3 土 木	2 一 般	6 一 般	10 コンクリート舗装工 (コンクリート舗装	厚さあるい は標高較差	-22	-3.5	1.3次元データによる出来形質 おいて「3次元計測技術を用いた 形管理要領(案)」に基づき出来	出来 中規模とは、1層あたりの施工面	積 3-2-6-12
工事共通編	施	舗装工			版工)		平坦性	_	により機械舗 設の場合 (σ)2.4mm以下 人力舗設の場	技術 (価管理の場合) 」に基づき出来 形管理を実施する場合、その他本基準 に規定する計測精度・計測密度を満た す計測方法により出来形管理を実施す る場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測料	、 小規模とは、表層及び基層の加熱ア 塩スファルト混合物の総使用量が500 t た 未満あるいは施工面積が2,000㎡未 満。維持工事においては、平坦性の項		工事共通編	施工	新 装 工	版工)(面管理の場合)	平坦性	_	<mark>メーター</mark> によ り機械舗設の 場合(σ)2.4mm 以下	理を実施する場合、その他本基準 定する計測精度・計測密度を満た	4に規 小規模とは、表層及び基層の加索 アスファルト混合物の総使用量が5-3場 t未満あるいは施工面積が2,000㎡ 満。	00 未
									合(σ)3mm以下	度として±4mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測落度は1点/㎡(平面投影面積当たり)以上とする。	S. S.								人力舗設の場 合(σ)3mm以下	3. 計測は設計幅員の内側全面と全ての点で標高値を算出する。計度は1点/㎡(平面投影面積当た以上とする。4. 厚さは、直下層の標高値と当	 測密 り)	
										4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの表とする。	三 勞 嘶长									の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価す 合は、直下層の目標高さ+直下層 高較差平均値+設計厚さから求ま さとの差とする。	の標	
							目地段差	:	±2	隣接する各目地に対して、道路中心線 及び端部で測定。	100						目地段差	Ξ	±2	隣接する各目地に対して、道路中 及び端部で測定。	1. 心線	
3 土木工事共通編	施	6一般舗装工	12		コンクリー(転圧コン版展路盤工(面管理の	場合)	基準高▽ 厚さあるい は標高較差		+40 +50	形管理を実施する場合、その他本基準	平規模とは、1層あたりの施工面積 前が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱 アスファルト混合物の総使用量が500 と t 未満あるいは施工面積が2,000㎡未 満。	3-2-6-12 3-2-6-12	3 土木工事共通編	2 - 般施工	一般舗装工	12 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) 下層路盤工 (面管理の場合)	基準高▽ 厚さあるい は標高較差	±90 ±90 ±90 ±90	+40 +50 -15 -15 +40 +50 -15 -15	形管理要領(案)」に基づき出来 理を実施する場合、その他本基準 定する計測精度・計測密度を満た	 出来 中規模とは、1層あたりの施工面が2,000㎡以上とする。 塩に規 小規模とは、基層及び基層の加東 アスファルト混合物の総使用量が5 1 未満あるいは施工面積が2,000㎡ 満。 計測特 こし、 ・測密 ・り) 試該層 一る場合の標準 高の 	热 00
3 土木工事共通編	般施工	6一般舗装工	12	14	コングリー (転圧コン 版工) 転放度調整路 (面管理の	⁄ クリート 盤工	厚さあるいは標高較差		-8	おいて「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案) 舗装工編 多点計画 技術(面管理の場合) 」に基づき出来 形管理を実施する場合、その他本基準	平 中規模とは、1層あたりの施工面積 前が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱 生 アスファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000㎡未 満。	3-2-0-12	3 土木工事共通編	2一般施工	— 般 舗	14 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-55 -66	-8	おいて「3次元計測技術を用いた 形管理要領(案)」に基づき出来 理を実施する場合、その他本基準 定する計測精度・計測密度を満た	出来で	積 A 00

								;	現行	· (令和	13年	版)															Ę		案(令和	14年	版)						
								個々の測	l	i 値 10個の測定値 の平均(X10)								単位:mm									個々の	規格	10個の測定値 の平均(X10)								単位:mm
編	章	節 条	枝番	エ		種	測定項目	(X	小規模	*面管理の場は測定値の型均 中規模 小規模以上 以下	模	測	定基	準	測	定) 所	摘要	編	章	節	条 :	枝番	I	種	測定項目	()	X)	*面管理の場合は測定値の 平均 中規模 小規模 以上 以下		測定	基	準		測 定	箇 所	摘要
工	_ 般 施	6 一般 舗装工	15	(転 版工) セメ	クリート舗 エコンク ント (石) 安定処理エ	リート	厚さ幅	-25 -5	-30	-8 -	幅は、 厚取 だし、	は、1,000 もしくは、 幅は設ま n以下の間)㎡に1個の 掘り起こ H図書の測り	点によらず延	中規模とは、 が2,000㎡以 が2,000㎡以 小規模とは、 でスファルト混	1層あた とする。 表層及び 合物の総	び基層の加熱ア	-		2 一般施工	6一般舗装工	12	Я -	コンクリー (転圧コン 版工) セメント(青)安定処理	クリート 石灰・瀝	厚さ幅	-25	-30 50	-8 -	さは、 取もし し、幅	1,000㎡に1位 くは掘り起 は設計図書	個の割て こして の測点に	・コアーを採 測定。たた よらず延長	采 中 対 が2,0 長 小 夫 アスコ	000㎡以上と ⁻ 規模とは、ま ファルト混合	層あたりの施工面積	ŕ
編															個以上の割合 ればならない 値の平均値 なければなら	かで規格値 いとともに (X10) に かない。た の個未満の	定値が10個に9 値を満足しなけ こ、10個の満足こ こついて、原理と ただ合は測定 の場合は測定値 、。		9編											要領(定による	う測点の管理	型以上の はない ので はない はがし だったり	の割合で規構 らないとと 均値 (X10) ばならない)測定値が10個に9個 各値を満足しなけれ もに、10個の測定値 について満足しな 。ただし、厚さの よ満の場合は測定値 ない。	
																Fでコア採 与える恐	采取により床版 ∜れのある場合 とが出来る。																	橋頭版等に	に損傷を与え	て コアー採取により床 える恐れのある場合 ムニとが出来る。	
土木工	 般 施	6 12 12	16	(転) 版工) セメ 青)	クリート舗 王コンク ント(石店 女定処理エ で管理の場合	ア・瀝	厚さあるい		-66	-8	お形技形にする 2度 3全度以 4の 5合高	て里価をす方に 々て 測点点す き値 享 直 3 領籍等表法適 の土 はで/る はと を下の 対点点す き値 う 直 直	元計・	を帰にそ則管 値に 則す面 高値 と 当計 対	工事規模の考式、 年 中規模とは、 が2、000㎡以上 ・小規模とは、 ・小規模とは、 ・小規模とは、 ・小規模とは、 ・一満あるい、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	え方 1層あた 上とする。 、表層及 混合物の	りの施工面積	3-2-6-12		2 一般施工	6 一般舗装工	12	片 H	コンクリー (転圧コン ドント(で で で で で で で で で で で で で の で の で の で	クリート 石灰・瀝 理工	厚さあるいは標高較差		-66	-8	お形理定測合 2度 3全度以 4の 5合高には上 標 は較には上 標 は較に要う法適 個し 計の1と 厚高 厚、差	「3 6 元 4 元 4 元 4 元 4 元 4 元 4 元 4 元 4 元 4 元	測」、計形 の含 員を面 層章 差標技にそ測管 規ま の算投 の出 と高なると他身を 値て 假す面 高る て+	と けい は は は は は は は は は は は は は	に を	規模の考え方 規模とは、1½ 000㎡以上と ⁻ 規模とは、表 ファルト混合	・ 層あたりの施工面積	3-2-6-12
土木工	ー 般 施 エ	6 12 6	17	(転)	クリート舗 圧コンク [・] ファルト中	J — F	厚を	-9 -2	-12 5	-3	厚さ!採取の測	は、1,000 して測定。)㎡に1個 <i>0</i> ただし、巾 ず延長80m以	の割でコアを 幅は設計図書	(1) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2	1と表合施 々でと×な個用 いでえに おあるび総積 定値ににたのい 採れこ はれこ はいましている ている ている ている でいる でいる はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はい	基度の加熱の はが2,000㎡ に を では、000㎡ に では、10個で、 では、10個で、 では、10個で、 では、10個で、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	3-2-6-12	土木	2一般施工	6一般舗装工	12	K	コンクリー (転圧 コン 版エ) アスファル	クリート	厚を		-12 25	-3	厚さは を採取 書の測	、1,000㎡に して測定。	こ1個の ただし、 延長80m	割でコアー幅は設計図	マラス 関い できない はい	000世よりののでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないできれば、大きないでは、まないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、ないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、まないでは、ないでは、ないでは、まないでは、まないでは、まないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、	層ある。 項 を は は に た だ 場 の の に あ と の り の 面 積 が 500 t は 高 で 100 c が 高 で で で る る こ で は 、 項	3-2-6-12

						現行	宁(令和3	3年版)									改定	案(令和	14年版)			
							hts 1-1-			単位:mm	1						7.00	de lete				単位:mm
編	章	節条	枝番	工 看	測定項目	個々の測定値 (X)	格 値 10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均 ・ 中規模 以上 リア	測定基準	測 定 箇 所	摘 要	編:	章	節	条 枝番	工種	測定項目	個々の測定値 (X)	各 値 10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合は測定値の 平規模 小規模 以上 以下	. 測 定 2	陛 準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 12 12 粉舗装工	18	コンクリート舗装 (転圧コンクリ・版工) アスファルト中間 (面管理の場合)	は標高較差		-3	形管理要領(案) 舗装工編 多点計 技術(面管理の場合) 」に基づき出 形管理を実施する場合、その他本基	平 中規模とは、1層あたりの施工面積 が2,000㎡以上とする。 水・規模とは、表層及び基層の加熱ア 準スファルト混合物の総使用量が500 t た 未満あるいは施工面積が2,000㎡未 す 清 ・ 密	3-2-6-12	土 井 井 土 井 工 井	般施工	6 一般舗装工	12 18	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) アスファルト中間層 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-20 -27	-3	理を実施する場合、そ 定する計測精度・計測	術基の密理 格にい側さる当 は と計た と計た と計た 当場 してい 側って 積 値 と で の出影 標って て 一層の で で しょう で の で の で の で の で の で の で の で の で の で	中規模とは、1層あたりの施工面が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱 アスファルト混合物の総使用量が5(t未満あるいは施工面積が2,000㎡ 満。	100
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 12 - 般舗装工	19	コンクリート舗装(転圧コンクリー版工)	厚さ	-15 -35	-4.5	割で測定、平坦性は各車線毎に版縁	マ 中規模とは、1層あたりの施工面科	アンミーク 生 こう 度 一 皮 か	土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土	施工	6一般輔装工	12 19	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工)	厚さ 幅 平坦性 目地段差	-15 -35	ー 転圧コンク リートの硬化 後、3mプロフィル メーターによ り(σ)2.4mm以 下	測定、幅は、延長80m 測定、平坦性は各車線 の線上、全延長とする 設計図書の測点により の間隔で測定すること 「3次元計測技術を用	またはレベルに上 方向に3ヶ所のは 5方向に3ヶ所の割で。 4年にただしい、幅 5でを3のは いた出来形管理 よる測点の管理 きる。	中規模とは、1層あたりの施工面が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層のがアスファルト混合物の総使用量が1 大満あるいは施工面積が2,000㎡満。 厚さは、個々の測定値が10個に以上の割合で規格値を満足しな別定ばならないとともに、10個の満足しければならない。ただし、厚空データ数が10個未満の場合は測定の平均値は適用しない。	熱00未 個れ値なの値 床合
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 12 12 般舗装工	20	コンクリート舗装 (転圧コンクリー 版工) (面管理の場合)	子さめるV け煙真酔き	_	後、3mプロフィル メーターにより	形管理要領(案) 舗装工編 多点計 技術(面管理の場合) 」に基づき出 形管理を実施する場合、その他本基	来 中規模とは、1層あたりの施工面積 が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱ア 準 スファルト混合物の総使用量が500 t た未満あるいは施工面積が2,000㎡未 す満。 維持工事においては、平坦性の項 青 目を省略することが出来る。		土井	般施工	— 般	12 20	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) (面管理の場合)	厚さあるい は標高較差 平坦性 目地段差	-32 -	転圧コンク リートの硬化 後、 3mプロフィル メーターによ り(σ)2.4mm以 下	形管理要領(案)」に 理を実施する場合、そ 定する計測精度・計測 測方法により出来形管 合に適用する。	術基の密理 は しきさい 内出 に が に が に が に が に が に が に が に が に が に	中規模とは、1層あたりの施工面が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加製アスファルト混合物の総使用量が5(t未満あるいは施工面積が2,000㎡ 満。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	: :00 夫

								現行	了(令和:	3年版)											改定	案(令和	口4年版)		
編	章 2 	節	条 13	М	エ	Ĺ		個々の測定値 (X) 中規模 小規模 以上 以下	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 中規模 小規模 以上 以下	基準高は、延長	基 準 0m毎に1ヶ所の割 なび端部で測定。厚		力	単位: 摘 要		章 2 —	節 身		支番 エ 種 1 薄層カラー舗装工	測定項目	個々の測定値 (X) 中規模 小規模 以上 以下	格 値 10個の測定値 の平均(X10) * 面管理の場合は測定値 平均 空域 ・ 中規模 以上 ・ 以下		測 定 箇 所 工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積	単位: mm 摘 要 3-2-6-13
土木工事共通編	般施工	般舗装工			(下層路盤工)	,	準高▽厚さ幅	±40 ±50 -45 -50	— ————————————————————————————————————	は、各車線200r	(ひ姉部で側た。場り: 毎に1ヶ所を掘り: ま、延長80m毎に1	型が2,000㎡以上。 が現機とは、 が、規模とは、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	とする。 長層及び基層の加 冷物の総使用量が5 施 工面積 が2,000 々の測館値が10個し で規格値に、10個の 大10)について、 ない。ただし、連測 ない。たばし、連測	熱 ア t t 未 9 t t 定 t p t l 定 t p t l 定 t p t l 定 t p t l 定 t p t l 定 t p t p t p t p t p t p t p t p t p t	1. 木工事共通編	般施	般舗装工		(下層路盤工)	基準高▽厚さ幅	+40 ±50 -45 -50	-15 -	は、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こ して測定。幅は、延長80m毎に1ヶ所の 割に測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理	が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱 アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000㎡未	
3 土木工事共通編	施工	6一般舗装工	13	2	薄層カラー舗装 (上層路盤工) 粒度調整路盤	r. '	厚さ幅	-25 -30 -50	-8 -		ほに1ヶ所の割とし 200m毎に1ヶ所を:	が2,000㎡以上。 が2,000㎡以上。 小規模とは、 大規模であるは、 に関するは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 の	1 層あたりの施工 とする。 とするの。 を層及び基層の加計 計物の総積が2,000 は 測解値に10個 に 10回でに としていたしにかしただ はない。たが場合は で見たい流の場合は に 10回で、は は 10回で、 に 10回で に 10回で	熱アt t f f f f f f f f f f f f f f f f f f	3 土木工事共通編	2一般施工	6 1: 般舗装工	3	2 薄層カラー舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ幅	-25 -30 -50	-8 -	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	中規模とは、1層あたりの施工面積 が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱 アスファルト混合物の総使用量が500	3-2-6-13
3 土木工事共通編	施工	6一般舗装工	13	3	薄層カラー舗装 (上層路盤工) セメント(石灰 定処理工)安	厚さ幅	-25 -30 -50			ほに1ヶ所の割とし ご1個の割でコアー 起こして測定。	が2,000 m ² k	1 層あたりの施工 とする。 基層の加速 を開発の影響を開発が5 が2,000 の測定値が10個にな別 見格値を満個にない り)について、 い。ただしの満足 い。ただしの満足 い。ただ別 引しない。	熟00㎡ 9け定しさ定 宋場の㎡ 9け定しさ定 版合	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 1: 般舗装工	3	3 薄層カラー舗装工 (上層路盤エ) セメント (石灰) 定処理工	厚さ 幅	-25 -30 -50	-8	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、馬さは、1,000㎡に1個の割でコアーを材取もしくは堀り起こして測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。。		3-2-6-13

								現行	(令和3	年版)										改定	案(令和	14年版)		
								規格	· 値				単位:m	n						規	格値			単位:mm
編	章	節	条	枝番	工 租	測定項目		・の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	測定基準	測定簡	所	摘要	編	章	節	条	技番 工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均	測定基準	測定箇所	摘要
							中規模以上		中規模 小規模 以上 以下											中規模 小規模 以上 以下	中規模 小規模 以上 以下			
3 土 木	2 一 般	6 一 般	13	4	薄層カラー舗装工 (加熱アスファ/	マラ アンド	-15	5 -20	-5	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし 厚さは、1,000㎡に1個の割でコア を採取して測定。	工事規模の考え方 - 中規模とは、1層あたり が2,000㎡以上とする。		3-2-6-13	3 土 木	2 一 般	6 一般	13	4 薄層カラー舗装工(加熱アスファルト	厚さ、	-15 -20	-5	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚 さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採 取して測定。		3-2-6-13
工事共	施工	舗 装 工		ž	安定処理工)	幅		-50	_		小規模とは、表層及び基 スファルト混合物の総使 未満あるいは施工面積2	用量が500 t		工事共	施工	舗装工		安定処理工)	幅	-50	_	要領(案)」の規定による測点の管理	小規模とは、表層及び基層の加熱 アスファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000㎡未	
通編											満。 厚さは、個々の測定値が 以上の割合で規格値を満 ばならないとともに、10 の平均値はないないについ だータ数が10個未満の場 の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取 は、他の方法によることが	足しの満足して しの満足厚測 とさで による による になる にある にある		通編								方法を用いることができる。	満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満厚しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
3 土 木	2 一 般	6 一 般	13	5	薄層カラー舗装工 (基層工)	厚さ	-9	9 -12	-3	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1,000㎡に1個の割でコア・ を採取して測定。	工事規模の考え方 - 中規模とは、1層あたり が2,000㎡以上とする。		3-2-6-13	3 土 木	2 一 般	6 一 般	13	5 薄層カラー舗装工 (基層工)	厚さ	-9 -12	-3	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚 さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採 取して測定。		3-2-6-13
不工事共	施	舗装工			(選膚工)	幅		-25	_	で 1水以 し く明 た。	小規模とは、表層及び基 スファルト混合物の総使 未満あるいは施工面積が	用量が500 t		小工 事 共	施工	組織		(医眉上)	幅	-25	_	「3次元計測技術を用いた出来形管理	小規模とは、表層及び基層の加熱 アスファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000㎡未	
光通編		<u>.</u>									不満のののいた地上面積が満。厚さは、個々の測定値が以上の割定値を満して規格値を満にならないとともに、10の平均値(X10)についければならない。ただデータ数が10個目しない。コアー採取について橋面舗装等でコアー採取について橋面舗装等でコアー採取は、他の方法によることが	10個になけにない。 91個になけになりになりになりになりになりにして、 測足厚測にする 10元 は 10		光通編		1						安明(采/] いがたによる間点の管理 方法を用いることができる。。	で、一般ののでは他上面傾から、000間へ 満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなけれ ばならないとともに、10個の測定値 の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さの データ数が10個未満の場合は測定値 の平均値は適用しない。 コア一採取について 橋面舗装等でコアー採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。	

							現行	亍(令和:	3年版)												改定	案(令和	14年版)			
							規	格値					単位:	nm							規	格値				単位:mm
編	章	節	条 枝	番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)		測定	基 準	測	定 箇 所	摘要	編	章	節	条	技番 工	種	測定項目		測定値の平均 (X)	測 定 基	连	測 定 箇 所	摘要
	一 般 施	6 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	5 1	路	存面切削工	厚さ t 幅w	-7 -25	-2 -	高の差で算出する。 測定点は車道中心を 中心とする。 延長40m未満の場で 箇所とする。	泉、車道端及びその 合は、2ヶ所/施工 測点数を変えるこ		Q.	3-2-6-15	3 土木工事共通編	施	6 一般舗装工	15	1 路面切削工		厚さ t 幅w	-7 -25	-2 -	厚さは40m毎に現舗装高の差で算出する。 測定点は車道中心線、二 神心とする。 延長40m末満の場合は、 所とする。 延長40m末満の場合は、 所とが出来る。 測定方法は自動横断測が出来る。 「3次元計測技術を用 要領(案)」の規定に 方法を用いることができ	車道端及びその 2ヶ所/施工箇 点数を変えるこ 定法によること いた出来形管理 よる測点の管理	現舗装 w	3-2-6-15
	一 般 施	6 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和	.5 2	標	活面切削工 (面管理の場合) (高較差または厚 のみ	さ (標高較差)	-17 (17) (面管理として緩和)	-2 (2)	管理要領(案)祭 き出来形管理を実 る。 2. 計測は切削面の 点で設計面との 差を算出する。計 面投影面積当たり) 3. 厚さtまたは 高切削後の基準高 4. 幅は、延長40	をする場合に適用する場合に適用する場合に適用する場合とし、するではた1点/m2 したは標高平 以上とする。 悪音を選出 は、現舗装 での場合に、現るは、 現る は、	t t	(E)	3-2-6-15	3 土木工事共通編	施	6一般舗装工	15	2 路面切削工 (面管理の場合 標高を差また t のみ	け回さ	厚さ t 標高較差) 幅w	-17 (17) (面管理として緩和) -25	-2 (2)	1. 「3次元計測技術管理版(条)」に基定を実施する場合に適の厚きを実施する場合に適の厚きを算出する。計測は即前の厚きを第二の長で第出情報を表施する。計測以、3. 厚さ t または標高とりが表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表	づき出来形管理 する。 面とし、は標高で はまは点がが、で はまは点がが、で ををで算出する。 で の の の の の の の の の の の の の	で ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	3-2-6-15
土木	一 般 施	6 一般舗装工	6	舗	該打換之工	幅w 延長I 厚さ 1 幅w 離設 工		-50 -100 当工種 -25 -100	各層毎1ヶ所/1ヵ	軍工箇所	w	L I	3-2-6-16	3 土木工事共通編	2一般施工	6 一般舗装工	16	舗装打換え工	正	幅w 解盤 延長 L 厚さ t 幅w 純齢設工		-50 -100 -4工種 -25 -100 -100	各層毎1ヶ所/1施工箇所 「3次元計測技術を用 要領(案)」の規定に 方法を用いることができ	いた出来形管理 よる測点の管理	w L	3-2-6-16
土木工	一般 施工	6 別額 第 五	7 1	オ	ーバーレイエ	厚さ t 幅w 延長L 平坦性	-	-9 -25 -100 3 m ^T p7 (ψ/-γ- (σ) 2. 4mm以下 直読式(足付き) (σ) 1. 75mm以下	厚さは40m毎に現 イ後の基準高の差 測定点は車道中心が 中心とする。 幅は、延長80m毎 延長80m未高 適所とする。 断面状況で、間隔、 とが出来る。	で算出する。 泉、車道端及びその こ1ヶ所の割とし、 合は、2ヶ所/施エ	-	全 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3-2-6-17	3 土木工事共通編	般	6 一般舗装工	17	1 オーバーレイコ	_	厚さ t 幅w 延長L 平坦性	-		厚さは40m毎に現舗装 イ後の基準高の差で算 測定点は車道中心線、 神心とする。 幅は、延長80m毎に1ヶ 長80m未満の場合は、2 とする。 断面状況で、間隔、測 とが出来る。 「3次元計測技術を用 要領(案)」の規定に 方法を用いることができ	出する。 車道端及びその 所の割とし、延 ケ所/施工箇所 点数を変えるこ 理理来形管管理 よる測点の管理	で ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	3-2-6-17
	一般 施工	6 一般舗装工	2		ーバーレイエ (面管理の場合)	厚さあるV は標高較差 平坦性	-20 	3 mプロフィルメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付 き)	おいて「3次元計 形管理要領(案) 技術(面管理の場 形管理を実施する に規定する計測精	#装工編 多点計畫 中装工編 名点計畫 中学 1 分			3-2-6-17	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	2 オーバーレイコ (面管理の場合	1-	厚さあるい は標高較差 平坦性	-20	3mプロフィル メーター (σ2.4mm以下 直読式(足付 き) (σ)1.75mm以 下	1. 3 大字元計測法によりでは、 3 大字元計測法によりで元計測にでいる。 3 大字元計測にでは、 3 大字元計測にのでは、 4 上のでは、 5 上のでは、 5 上のでは、 5 上のでは、 5 上のでは、 5 上のでは、 6 上のでは、 6 上のでは、 6 上のでは、 7 上の	 病基の密理 格で、側する積 高差 評目 正の密理 経で、側する積 高差 評目 不当 本さ を で し の で し の で し い し <		3-2-6-17

						現	行(令和3	3年版)		Ж. А.					改复	定案 (令和	14年版));;;
編	章	節	条 枝番	工 種	測定	項目	規格値	測 定 基 準		単位:r 所 摘 要		章	節条	枝番 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準		単位:mm 摘 要
3 土 木	2 一 般	7 地 盤	2	路床安定処理工	基準	進高▽	±50	延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測 定。		3-2-7-2	+:		7 2 地 盤	路床安定処理工	基準高▽	±50	延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測 定。	Ģ	3-2-7-2
工事共	施工	改良工			施工	厚さ t	-50	厚さは中心線及び端部で測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)表層安定処理等・固結工			事共	施	改 良 工		施工厚さ t	-50	厚さは中心線及び端部で測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」による管理の場合は、全		
通編					幅	≣w	-100	(中層混合処理)編 」による管理の場合は、全体改良範囲図を用いて、施工 厚さt、天端幅w、天端延長Lを確認		t	通編				幅w	-100	体改良範囲図を用いて、施工厚さ t 、 天端幅w、天端延長Lを確認(実測は 不要)。	t t	
					延:	長L	-200	(実測は不要)。	w						延長L	-200		W	
3 土 木 工	2 一般施	7 地盤改	4 2	表層安定処理工 (ICT施工の場合)	基準	售高▽	特記仕様書に明示	施工延長10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。	2 3 4	3-2-7-4	土木	般	7 4 地 盤 改	2 表層安定処理工 (ICT施工の場合)	基準高▽	特記仕様書に明示	施工延長10mにつき、1測点当たり5点 以上測定。	2 3 4	3-2-7-4
事共通	工	良工			法	長0	-500		0/	(5)	事共通		良工		法長ℓ	-500		<u> </u>	
編					天端	端幅 w	-300	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案) 表層安定処理等・固結工 (中層混合処理) 編」に記載の全体改	w.(L)	₹e	編				天端幅w	-300	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」に記載の全体改良平面図 を用いて天端幅w、天端延長Lを確認	e (L)	
					天端	延長L	-500	良平面図を用いて天端幅w、天端延長L を確認(実測は不要)	4/						天端延長L	-500	(実測は不要)	*/	
3 +:	2	7 地	9 3	固結工 (中層混合処理)	基準	進高▽	設計値以上	1,000㎡~4,000㎡につき1ヶ所、又は 施工延長40m(測点間隔25mの場合は 50m)につき1ヶ所。	ÇL !	3-2-7-9	土		7 9 地盤	3 固結工 (中層混合処理)	基準高▽	設計値以上	1,000㎡~4,000㎡につき1ヶ所、また は施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所。	CL ;	3-2-7-9
木工事	般 施 工	盤改良			施工	厚さ t	設計値以上	1,000㎡以下、又は施工延長40m(50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ 所。			事共	施	改 良 工		施工厚さ t	設計値以上	1,000㎡以下、又は施工延長40m (50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。		
共通編		工			帕	≣w	設計値以上	施工厚さは施工時の改良深度確認を出来形とする。 「3次元計測技術を用いた出来形管理	į	t	編				幅 w	設計値以上	施工厚さは施工時の改良深度確認を出来形とする。 「3次元計測技術を用いた出来形管理	t	
					延:	長L	設計値以上	要領 (案) 表 層安定処理等・固結工 (中層混合処理) 編 」による管理の場合は、全体改良範囲図を用いて、施工 厚さt、幅w、延長Lを確認(実測は不 理)	< w w	\rightarrow					延長L	設計値以上	要領(案)」による管理の場合は、全 体改良範囲図を用いて、施工厚さt、 幅w、延長Lを確認(実測は不要)。	$\langle W \rangle$	
3 土 木	2 一般	12 工場	1 1	鋳造費 (金属支承工)	部	Lの直径差	+2 -0	要)。 製品全数を測定。 ※1)ガス切断寸法を準用する		3-2-12-1	土木	般	12 1 工 場	1 鋳造費 (金属支承工)	上 下 孔の直径差 部	+2 -0	製品全数を測定。 ※1)ガス切断寸法を準用する		3-2-12-1
工事共通	施工	製作工			鋼構造物)突起を基準 孔の位置ずれ	※2) 片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3) ソールプレートの接触面の橋軸					製 作 工			の突起を基準 孔の位置ずれ	※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の橋軸		
編		共通			との控	≦1000mm	1以下	及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。			編		共通		と の 接 中 心	1以下	及び橋軸直角方向の長さ寸法に対して はCT13を適用するものとする。		
					合用ボ)突起を基準 孔の位置ずれ	※4)全移動量分の遊問が確保されているのかをする。							合 離 ボス(とした ボ	の突起を基準 孔の位置ずれ	※4) 全移動量分の遊問が確保されているのかをする。		
					ル ト 孔	>1000mm	1.5以下	※5)組立て後に測定							ル ト 孔 >1,000mm	1.5以下	※5) 組立て後に測定 詳細は道路橋支承便覧参照		
					ア ル 加	≦100mm	+3 -1								ア リ シ ル カ 加	+3 -1			
					アー ンバ カー	>100mm	+4 -2								ア	+4 -2			
					用孔 (鋳放し) 孔の	中心距離※1	JIS B 0403-1995 CT13								用 ボ孔 ル 大 大 大 大 大 大 し し	JIS B 0403-1995 CT13			
					Э 1	ボスの直径	+0 -1 +1								セン ボスの直径 ター	+0 -1 +1			
					ス	バスの高さ	+0								ボーボスの高さス	+0			
					ボス ※5	ボスの直径 ボスの高さ	-1 +1								ボ ボスの直径 ス ※ 5 ボスの高さ	-1 +1			
				(次頁に続く)		曲及び橋軸直	-1 JIS B 0403-1995 CT13							(次頁に続く)	上沓の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法	-1 JIS B 0403-1995 CT13			

							現	行(令和	3年片	扳)														改氮	定案(令和	口4年	版)							
編	章	節条	枝	番工	種	測	定項目	規格値		測定	基	準	測	定管	i 所	単位: 摘 要		章	節条	枝番	I	種	測	定項目	規格値		測 定	至 基	準		測 定	笛	所	単位:mm 摘 要
3 土 木	2 一 般	12 1 工 場	. 1			全 移 ※ N	£ ≦300mm	±2									土	- :	12 1 工 場	1			全移****	$\ell\!\leq\!300\mathrm{mm}$	±2									
工事共	施	製作工				4 量 ℓ	Q>300mm	± 0/100									工	施	製作工				4 量 ℓ	$\ell\!>\!300\text{mm}$	±0/100									
通編		共通				組	上, 下面加工仕上 げ	±3									通編		共通				組	上, 下面加工仕上 げ	±3									
						祖立高さ	コ ン 構力	±3															組立高さ	コ ン H ≦300mm	±3									
						H	造り 用 l ト H>300mm	(H/200+3) 小勬 点以下切り捨て	女														H	世 リ 用 l ト H>300mm	(H/200+3)小数 点以下切り捨て	ά								
							鋳放し長さ寸法 ※2)、※3)	JIS B 0403-1995 CT14	5															鋳放し長さ寸法 ※2)、※3)	JIS B 0403-1995 CT14									
						普通	鋳放し肉厚寸法 ※2)	JIS B 0403-1995 CT15	5														普通	鋳放し肉厚寸法 ※2)	JIS B 0403-1995 CT15									
						寸法	削り加工寸法	JIS B 0405-1991 粗級															寸法	削り加工寸法	JIS B 0405-1991 粗級									
				AL SHI dita			ガス切断寸法	JIS B 0417-1979 B級		. W											A L. S. II. addi			ガス切断寸法	JIS B 0417-1979 B級		W							
3 土 木	般	12 1 1 工 場		2 鋳造費 (大型ゴム支承	(工)	幅 W 長	w, L, D≦500	0~+5	平面度	≧数を測定。 ₹:1個の= <相対誤差	ム支承の	厚さ (t)				3-2-12-1	土木	般	12 1 工 場	2	鋳造費 (大型ゴム支産	(工)	幅 W 長	w, L, D≦500	0~+5	平面度	数を測定。 :1個のゴ 相対誤差	[ム支承の	の厚さ (t)		145.74x + +			3-2-12-1
工事共	施工	製 作 工				さ L	500 < w, L, D ≦1500mm	0~+1%					<u>補引</u>	i.td	_///	=	事		製 作 工				さ L 古	500< w, L, D ≦1,500mm	0~+1%	詳細は	道路橋支持	承便覧参	注照		181 334 71		7	
通編		共通				径 D	1500 < w, L, D	0~+15					t	k w	→		通編		共通				昼 径 D	1,500 < w, L, D	0~+15					t	↓	w		
						厚	t ≦20mm	±0.5								t							厚 -	t ≦20mm	±0.5								t	
						t -	20< t ≦160 160< t	±2.5% ±4						D									t -	20< t ≦160 160< t	±2.5% ±4	1						D		
						対 1	\mathbf{w} , \mathbf{L} , \mathbf{D} \leq $1000 \mathrm{mm}$ $< \mathbf{w}$, \mathbf{L} ,	1 (w, L, D)/1000	0														相対誤差	w, L, D ≦ 1,000mm 1,000mm< w, L, D	1 (w, L, D)/ 1,000									

					現	行(令和	3年版)									改员	定案(令和	 µ4年版)		
	1			1	1	1			単位: mn	n							1			単位:mm
編 3	章 2	節 14	条 枝番 2 1		測 定 項 目	規格値	測 定 基 準 施工延長40m (測点間隔25mの場合は	測 定 箇 所	摘 要 3-2-14-2		章 2			支番 工 種 1 植生工	和	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準 施工延長40m (測点間隔25mの場合は	測 定 箇 所	摘 要 3-2-14-2
土木工	般施	法面工		(種子散布工) (張芝工)	土 法 2<5m	-200	50m) につき 1 ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。			木	般施	法面工		(種子散布工) (張芝工)	土法員	Q < 5m	-200	50m) につき1ヶ所、延長40m (<mark>また</mark> は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。		
事共通	工	共通		(筋芝工) (市松芝工) (植生シート工)	₽ ℓ≥5m	法長の-4%	ただし、計測手法については、従来 管理のほかに「3次元計測技術を用い た出来形管理要領(案) 法面工編 」で				工	共通		(筋芝工) (市松芝工) (植生シート工)	反	0 ≧ 5m	法長の-4%	ただし、計測手法については、従来 管理のほかに「3次元計測技術を用い た出来形管理要領(案)」で規定する		
編		~=		(植生マット工) (植生筋工) (人工張芝工)	盛 土 法	-100	規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。			編		~		(植生マット工) (植生筋工) (人工張芝工)	盛土法	0 < 5m	-100	出来形計測性能を有する機器を用いる ことができる。		
				(植生穴工)	長 ℓ ℓ≥5m	法長の-2%	4 Her Mar start to							(植生穴工)	長	$Q \geqq 5m$	法長の-2%	a the -r total te		
					延長L	-200	1施工箇所毎 ただし、計測手法については、従来 管理のほかに「3次元計測技術を用い た出来形管理要領(案) 法面工編 」で 規定する出来形計測性能を有する機器 を用いることができる。									延長L	-200	1施工箇所毎 ただし、計測手法については、従来 管理のほかに「3次元計測技術を用い た出来形管理要領(案)」で規定する 出来形計測性能を有する機器を用いる ことができる。		
3 土木工事共	2 一般施工	14 法面工 共7	2 2	植生工 (植生基材吹付工) (客土吹付工)	0<5m 法 長	-200	施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ただし、計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)法而工編」で規定する出来形計測性能を有する機器		3-2-14-2	木工事共	2 一般施工	法面工 共	2	2 植生工 (植生基材吹付工) (客土吹付工)	法長	ℓ < 5m	-200	施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下の ものは1施工箇所につき2ヶ所。 ただし、計測手法については、従来 管理のほかに「3次元計測技術を用い た出来形管理要領(案)」で規定する 出来形計測性能を有する機器を用いる		3-2-14-2
通編		通			ℓ ℓ≥5m	法長の-4%	を用いることができる。			通編		通			0	Q ≧ 5m	法長の-4%	ことができる。		
					t <5cm	-10	施工面積200㎡につき1ヶ所、面積200 ㎡以下のものは、1施工箇所につき 2ヶ所。									t < 5cm	-10	施工面積200㎡につき1ヶ所、面積200㎡以下のものは、1施工箇所につき2ヶ		
					厚 さ t ≥5cm	-20	検査孔により測定。								厚さ	t ≧5cm	-20	検査孔により測定。		
						□凹凸がある場合の 受計厚の50%以上。 ト厚以上。	본								t	ただし、吹付面に 最小吹付厚は、設 し、平均厚は設計		:		
					延長L	-200	1 施工箇所毎 ただし、計測手法については、従来 管理のほかに「3次元計測技術を用い た出来形管理要領(案) 法亩工編」で 規定する出来形計測性能を有する機器 を用いることができる。									延長L	-200	1施工箇所毎 ただし、計測手法については、従来 管理のほかに「3次元計測技術を用い た出来形管理要領(案)」で規定する 出来形計測性能を有する機器を用いる ことができる。		
3 土木工事	2 一般施工	14 法 面 工	3	吹付工 (コンクリート) (モルタル)	ℓ<3m 法	-50	施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下 のものは1施工箇所につき2ヶ所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測 定の困難な場合は直線法長とする。 ただし、計測手法については、従来	A Report of	3-2-14-3	土木	2 一般 施工	14 法 面 工	3	吹付工 (コンクリート) (モルタル)	法長	ℓ < 3m	-50	施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下の ものは1施工箇所につき2ヶ所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測 定が困難な場合は直線法長とする。 ただし、計測手法については、従来	**************************************	3-2-14-3
共通編		共通			0 €3m	-100	管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案) 法面工編」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。			共通編		共通			Q Q	Q ≧ 3m	-100	管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」で規定する 出来形計測性能を有する機器を用いる ことができる。		
					t < 5cm	-10	200㎡につき1ヶ所以上、200㎡以下は 2ヶ所をせん孔により測定。	2								t <5cm	-10	200㎡につき1ヶ所以上、200㎡以下は 2ヶ所をせん孔により測定。		
					厚 さ t ≧5cm t	-20									厚 t	t ≧5cm	-20			
						上凹凸がある場合の 設計厚の50%以上。 計厚以上										ただし、吹付面に 最小吹付厚は、設 し、平均厚は設計			e e	
					延長L	-200	1施工箇所毎 ただし、計測手法については、従来 管理のほかに「3次元計測技術を用い た出来形管理要領(案) 法再工編」で 規定する出来形計測性能を有する機器 を用いることができる。	Ý								延長L	-200	1施工箇所毎 ただし、計測手法については、従来 管理のほかに「3次元計測技術を用い た出来形管理要領(案)」で規定する 出来形計測性能を有する機器を用いる ことができる。	Ÿ _L	

					現	行(令和	3年版)			SV-11							改氮	定案(令和	14年版)		NV.
編	章 節	ř ŝ	条 枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 🕯	箇 所	単位:mm 摘 要	編章	節	条	枝番 工	種		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	単位: ㎜ 摘 要
木工	2 14 一 法 面 工	Ē.	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	ℓ<10m 法 長	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。 計測手法については、従来管理のほか			3-2-14-4 曲線部は設計 図書による	3 2 土 木 工 事	面工	4		是 易打法枠工) 易吹付法枠工)	法長	ℓ<10m	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。 計測手法については、従来管理のほか		3-2-14-4 曲線部は設計 図書による
共通編	共通				ℓ ≥ 10 m	-200	に「3次元計測技術を用いた出来形管 理要領(案) 法面工編 」で規定する出 来形計測性能を有する機器を用いるこ とが出来る。	(共通編	共 通				Q Q	ℓ ≧ 10m	-200	に「3次元計測技術を用いた出来形管 理要領(案)」で規定する出来形計測 性能を有する機器を用いることが出来 る。		→
					幅w	-30	枠延延長100mにつき1ヶ所、枠延延 長100m以下のものは1施工箇所につ き2ヶ所。 計測手法については、従来管理のほか に「3次元計測技術を用いた出来形管		a h								· 幅w	-30	枠延延長100mにつき1ヶ所、枠延延長 100m以下のものは1施工箇所につき2ヶ 所。 計測手法については、従来管理のほか に「3次元計測技術を用いた出来形管	a h	1
					高さh	-30	理要領(案) 法面工編 」で規定する出 来形計測性能を有する機器を用いるこ とが出来る。										高さh	-30	理要領(案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることが出来る。		
					枠中心間隔 a	±100											枠中心間隔 a	±100			
					延長L	-200	1施工箇所毎 計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管 理要領(案) 法面工編 」で規定する出 来形計測性能を有する機器を用いるこ とが出来る。										延長L	-200	1施工箇所毎 計測手法については、従来管理のほか に「3次元計測技術を用いた出来形管 理要領(案)」で規定する出来形計測 性能を有する機器を用いることが出来 る。		
土木工	2 15 一 擁 般 壁 工	差	1	(一般事項) 場所打擁壁工	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。	$\stackrel{\mathrm{W}_1}{\triangleright}$	* 	3-2-15-1	3 土 十 米 股 工 施	推 壁	1	一般事(場所	¥項 折打擁壁工)		基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (<mark>また</mark> は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。	 ™ 1	3-2-15-1
共通	工 共通				厚さ t	-20			h		事共通	共 通					厚さ t	-20	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」に基づき出来形管理を実	/ h	
編					裏込厚さ	-50		W ₁	→ w ₁ →		編						裏込厚さ	-50	施する場合は、同要領に規定する計測 精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができ る。		
					幅 W ₁ , W ₂	-30	-	h									幅 w ₁ , w ₂	-30	_		h
					高 さ h	-50	-	Tt w ₂								高 さ h	h < 3m	-50	-	w ₁	
					h ≧3m	-100	1 施工箇所毎										h ≧3m	-100	1施工箇所毎		t
					延長 L	-200	_	t h	h t								延長 L	-200	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」に基づき出来形管理を実 施する場合は、同要領に規定する計測 精度・計測密度を満たす計測方法によ		T d
3	2 15	5 9	2	プレキャスト嬢睽下			施工延長40m (測占問隔95mの場合け	k W ₂	W ₂	3-9-15-9	3 9	15	9	プレキ	- セスト擦磨丁				り出来形管理を実施することができ る。		3-2-15-2
土木工事共	2一般施工 共	## ## 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		プレイザスド海堡工	基準高▽	±50	施工を戻すが、 50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。	∇	∇	3 2 13 2	土木工事共	· 擁 壁 I 工	2		イスト海型工		基準高▽	±50	地工建設等50m((1) を1 を2 を1 を2 を1 を2 を		3 2 13 2
通編	通										編	通							要領 (案) 」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計 精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができ る。		
					延長L	-200	1 施工箇所毎										延長L	-200	1施工箇所毎 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領 (案)」に基づき出来形管理を実		
																			施する場合は、同要領に規定する計 精度・計測密度を満たす計測方法によ り出来形管理を実施することができ る。		
土木工事共通	般施工共	推卷1.1	2	プレキャスト擁壁工		±50 -200	50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。	V V	t t	3-2-15-2	木工事共通	推壁工 共	2	プレキ	テヤスト擁壁工		基準高▽ 延長L		施する場合は、同要領に規定する計測 精度・計測密度を満たす計測方法によ る。 施工延長40m(測点間隔25mの場合は 50m)以下のものは1施工箇所につき 50m)以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」に基づき出来形管理 持度・計測密度を調定する計測方法によ り出来形管理を実施することができ る。 1施工箇所毎 「3次元計測技術を用いた出来形管理 財出来形管理を実施することができ る。		

					現	行(令和	3年版)							改氮	定案(令和	14年版)		
編	章	i s	条 枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	単位:mn 摘 要	編	章	節条	技番 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	単位:mm 摘 要
3 土 木 工	2 共 通 野 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五	Ě	3	補強土壁工 (補強土 (テールアル メ) 壁工法)	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。	→	3-2-15-3	3 土 木 工	2 共通的	15 3 擁 壁 工	補強土壁工 (補強土 (テールアル メ) 壁工法)	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。	→	3-2-15-3
事共通編	工	ŧ		(多数アンカー式補強 土工法)	h < 3m 高	-50		,		事共通編	工種	共通	(多数アンカー式補強 土工法) (ジオテキスタイルを 用いた補強土工法)	h < 3m さ	-50	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」に基づき出来形管理を実 施する場合は、同要領に規定する計測	h	
					h h ≧3m	-100		notes .						h h ≧ 3m	-100	精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。		
					鉛直度△	±0.03 h かつ ±300以内	-	→ ←						鉛直度△	±0.03 h かつ ±300以内		→ 	
				-	控え長さ (補強材の設計長)	設計値以上	1 施工箇所毎							控え長さ (補強材の設計長)	設計値以上	1施工箇所毎		
					延長L	-200								延長L	-200	「3次元計測技術を用いた出来形要管理領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。		
3 土 木 工	2 一 般 滩 加	£	3 3	浚渫船運転工 (バックホウ浚渫船) (面管理の場合)		平均値 個々の 計測値			3-2-16-3	3 土 木 工	2 一般施	16 3 浚 渫 工	3 浚渫船運転工 (バックホウ浚渫船) (面管理の場合)		平均値 個々の 計測値	1. 3次元データによる出来形管理に おいて「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)」に基づき出来形管 理を面管理で実施する場合、その他本		3-2-16-3
事共通編	工	Ę		(田岳)生(7////////////////////////////////////	標高較差	0以下	場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用す			工事共通編	工	共通	(田田子の参口)	標高較差	0以下 4400 以下	生を間目生く死患する%の目の心臓 基準に規定する計測精度・計測密度を 満たす計測方法により出来形管理を実 施する場合に適用する。		
17 1111							○。 2. 個々の計測値の規格値には計測精 度として±100mmが含まれている。			将冊						2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±100mmが含まれている。		
							3. 計測は平場面と法面の全面とし、 全ての点で設計面との標高較差を算出 する。計測密度は1点/㎡(平面投影 面積当たり)以上とする。									3. 計測は平場面と法面の全面とし、 全ての点で設計面との標高較差を算出 する。計測密度は1点/㎡(平面投影 面積当たり)以上とする。		
6 河 川	築 法 環	i i	4	護岸付属物工	幅w	-30	□ (電気に対している。) 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案) 護学工籍 」の規定による測 点の管理方法を用いることができる。	w w	6-1-7-4	6 河 川	1 築 堤	7 4 法 覆	護岸付属物工	幅w	-30	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。		6-1-7-4
編	護 護岸 工 工	É			高さ h	-30	-	h		編	護岸	護岸工		高さh	-30			
								250										
7 河 川	1 6 堤 防 岸	the rest	4	海岸コンクリートプ ロックエ	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき		7-1-6-4	7 河 川 海	1 堤 防	6 4 護 岸	海岸コンクリートプ ロックエ	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき	<u> </u>	7-1-6-4
海岸編	• 工 護 岸	-			ℓ<5m 法長ℓ	-100	2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案) 護岸工編」の規定による測 点の管理方法を用いることができる。	2		海岸編	護岸	エ		ℓ<5m 法長ℓ	-100	2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。	و	
					ℓ≧5m 厚さ t	ℓ× (−2%) -50	-	t						ℓ≥5m 厚さ t	0× (−2%) −50		t	
					延長L	-200	-							延長L	-200		WASS	
7 河	堤 護	Ē	5	コンクリート被覆工	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は		7-1-6-5	7 河	1 堤 防	6 5 護 岸	コンクリート被覆工	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または		7-1-6-5
河川海岸編	防・護岸				ℓ<3m	-50	50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案) 護岸工編 」の規定による測	a		7河川海岸編	防・護岸	岸 工		ℓ < 3m	-50	50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理	2	
					法長ℓ ℓ≧3m	-100	点の管理方法を用いることができる。							法長ℓ ℓ≥3m	-100	方法を用いることができる。	2	
					する t <100 t ≥100	-20 -30	_	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1						t <100 厚さ t t ≥100	-20 -30			
					裏込材厚 t '	-50	-							裏込材厚 t '	-50		□ _b	
					延長L	-200]							延長L	-200			

								現行	了(令和3	3年版)								改定	案(令和	14年版)		
												単位:mm										単位:mm
								規格	各 値									規	格 値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X ₁₀)	測定基準	測 定 箇 所	摘要	編章	ž (節条	枝番 工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X ₁₀)	測定基準	測定簡所	摘要
							中規以上	模 小規模 と 以下	中規模以上									中規模 小規模 以下	中規模以上			
10 道 路	2 舗 装	4 舗 装			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基準高▽		±50		基準高は片側延長40m毎に1ヶ所ので測定。 - 厚さは、片側延長200m毎に1ヶ所	中規模とは、1層あたりの施工面積		10 2 道 舗 路 装		4 舗 装	歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基準高▽	±50	_	基準高は片側延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1ヶ所掘り	中規模とは、1層あたりの施工面積	0-2-4
編	বং	I.			6月間	t < 厚 15cm		-30	-10	り起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1ヶ所測定	小規模とは、表層及び基層の加熱ア スファルト混合物の総使用量が500 t		編		I.	10月間次町盆上	t < 15 cm	-30	-10	起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1ヶ所測定。	小規模とは、表層及び基層の加熱ア スファルト混合物の総使用量が500 t	
						さ t ≧ 15cm		-45	-15	※両端部2点で測定する。	未満あるいは施工面積が2000㎡未 満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個						t ≧15 cm	-45	-15	※両端部2点で測定する。	未満あるいは施工面積が2,000㎡未 満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個	
						幅		-100	_		以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しな						幅	-100	_	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。	以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しな	
											いての他、人間が、これが、に間でしない。 ければならない。ただし、厚さの データ数が10個未満の場合は測定値 の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。									JIMENVOCENCES.	ければならない。ただし、厚とさのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。コー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
10 道		4 舗			歩道舗装工 取合舗装工	厚さ		-9	-3	幅は、片側延長80m毎に1ヶ所の割 測定。厚さは、片側延長200m毎	に 中規模とは、1層あたりの施工面積		道舗		4 舗	歩道舗装工 取合舗装工	厚さ	-9	-3	幅は、片側延長80m毎に1ヶ所の割で 測定。厚さは、片側延長200m毎に1ヶ	中規模とは、1層あたりの施工面積	0-2-4
路編	装	装工			路肩舗装工 表層工	幅		-25	_	1ヶ所コアーを採取して測定。	が2000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱ア		路 装編	tik :	装 工	路肩舗装工 表層工	幅	-25	_	所コアーを採取して測定。	が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱ア	
											スファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2000㎡未 満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値 の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さの データ数が10個未満の場合は測定値 の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面離装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。									3次元計測技術を用いた出来形管理要額(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	スファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000㎡未 満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなけれ ばならないとともに、10個の測定値 の平均値(X10)について満足しな ければならない。ただし、厚さの データ数が10個未満の場合は測定値 の平均値は適用しない。 コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。	

					現	行(令和:	3年版)			W tr				改员	定案(令和	04年版))4 ft-
編	章	節条	枝番 工 種	測	定項目	規格値	測 定 基 準	測 定	箇 所	単位: mm 摘 要	編章	節条	枝番 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	単位: ㎜ 摘 要
10 道路編	2 舗装	5 排 水 構 造 物 工	排水性舗装用路肩排水工		基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。なお、従来管理のほかに「3次元計劃技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編 計測技術(街面管理の場合)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。			10-2-5-9	10 2	5 9 排水構造物工	排水性舗装用路肩排水工	基準高▽	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 なお、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		10-2-5-9
					延長L	-200	1ヶ所/1施工箇所 なお、従来管理のほかに「3次元計測 技術を用いた出来形管理要領(案)舗 装工編 計測技術(断面管理の場 合)」の規定による測点の管理方法を 用いることができる。							延長L	-200	1ヶ所/1施工箇所 なお、従来管理のほかに「3次元計 測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法 を用いることができる。		
10 道 路	3 橋	6 橋 台	橋台躯体工		基準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋	W2 W1	W ₂ W ₁	10-3-6-8	10 3 道 橋 路 梁	6 8 橋 台	橋台躯体工	基準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋	W ₂ W ₁ W ₂ W ₁	10-3-6-8
編	梁下部	Ĭ.			厚さ t	-20	支承便覧」による。 なお、従来管理のほかに「3次元計測	h ₂			編下部	T		厚さt	-20	支承便覧」による。 なお、従来管理のほかに「3次元計測		
					天端幅w ₁ (橋軸方向)	-10	技術を用いた出来形管理要領(案)構造物工編(試行)」で規定する出来形 計測性能を有する機器を用いることが	t /	h ₁					天端幅w1	-10	技術を用いた出来形管理要領(案)」 で規定する出来形計測性能を有する機 器を用いることができる。(アンカー	h ₁	
					天端幅w ₂ (橋軸方向)	-10	できる。 (アンカーボルト孔の鉛直度を除く)		W ₃					天端幅w2	-10	ボルト孔の鉛直度を除く) ただし、「3次元計測技術を用いた	W ₃	
					敷幅w ₃ (橋軸方向)	-50	-	W2 W1	W2 W1					敷幅w ₃ (橋軸方向)	-50	出来形管理要領(案)」に基づき出来 形管理を実施する場合は、同要領に規 一定する計測精度・計測密度を満たす計	w ₂ w ₁ w ₂ w ₁	
					高さh ₁	-50	_		h_2					高さhュ	-50	測方法により出来形管理を実施するこ とができる。		
				脂	可壁の高さ h₂	-30			t t					胸壁の高さh2	-30	_	h ₁	
					天端長01	-50 -50	-	W3	w3 E間距離 0 _					天端長01	-50		W3 W3 W3	
					敷長0 ₂ 胸壁間距離0	-50 ±30	-		支間長					數長0 ₂ ————————————————————————————————————	-50 ±30	_	文間長	
					支間長及び	±50	_							支間長及び	±50			
				支承部ア	中心線の変位	+10~-20		h1	G L1					中心線の変位 支承部計画高ア	+10~-20	-	q L1	
				ンカーボルトの	平面位置	±20			1.2 心線の変位 ・ 橋軸直角方向)					ン カ ー ボ ル ド の	±20	_	12 中心線の変位 (a1: 橋軸直角方向)	
				第抜き規格値	アンカーボルト孔の 鉛直度	1/50以下		a1						箱 抜 き規 格 値	1/50以下	_	a1 a2 -	
																支承部アンカーボルトの箱抜き規格値の平面位置は客座の中心ではなく、アンカーボルトの箱抜きの中心で測定。アンカーボルト孔の鉛直度は箱抜きを橋軸方向、橋軸直角方向で十字に切った2隅で計測。	7-F2	

	現行(令和3年版)													改定案(令和4年版)										
編	章	節条	枝番 工	種	測	定項目	規格値	測 定 基 準	測定	箇 所	海 要 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第	編章	節条	枝番 工	種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	海 要				
路編	道 橋 I 路 梁 (下 木 部 用	7 R C 橋脚工	1 橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)		1	基準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。 なお、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案) 建物工編(軟行) 規定する出来形 計測性能を有する機器を用いることができる。(アンカーボルト孔の鉛直度を除く)	W 1	- 01 	10-3-7-9	10 3 6 深下部	7 9 R C 橋 脚工	1 橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)		基準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋 支承便覧」による。 なお、従来管理のほかに「3次元計測 技術を用いた出来形管理要領(案)」	— w₁	10-3-7-9				
						厚さ t	-20									厚さ t	-20	で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。 (アンカーボルト孔の鉛直度を除く) ただし、「3次元計測技術を用 いた出来形管理要領(案)」に基づき出来	W ₁					
						天端幅w ₁ 僑軸方向)	-20			h						天端幅w ₁ (橋軸方向)	-20	形管理を実施する場合は、同要領に規 定する計測精度・計測密度を満たす計 測方法により出来形管理を実施するこ とができる。	h t					
				_		敷幅w ₂ 僑軸方向)	-50			心問距離 0						數幅w ₂ (橋軸方向)	-50		位2 (成即中心問題雜 0 (支則長					
				_		高さ h	-50			q I LI J						高さ h	-50		G III					
				_	5	天端長 $oldsymbol{arrho}_1$	-50		hı	al al						天端長 $arrho_1$	-50		h1 - a1					
				-		敷長02	-50		(a1:橋)	L2 泉の変位 軸直角方向)						敷長02	-50		中心線の変位 (a 1: 橋軸直角方向)					
				_	橋脚。	中心間距離0	±30		**************************************							橋脚中心間距離@	±30							
				_		区間長及び 心線の変位	±50									支間長及び中心線の変位	±50		7 11 \ 711\					
					支承部アンカ	計画高	+10~-20									支承部アンカ	+10~-20	支承部アンカーボルトの箱抜き規格値 の平面位置は沓座の中心ではなく、ア ンカーボルトの箱抜きの中心で測定。 アンカーボルト孔の鉛直度は箱抜きを 橋軸方向、橋軸直角方向で十字に切っ	7-F2 #82 :pp					
				5	ーボルトの	平面位置	±20								l ボ ル ト の	±20	た2隅で計測。							
					箱抜き規格値	アンカーボルト孔の 鉛直度	1/50以下									箱抜き規格値 アンカーボルト 孔の鉛直度	1/50以下		アル・ルドルの正立 194 英芸家 二字字 22					
				-	1																			

					Į	見行(令和	3年版)			改定案(令和4年版)									
編章	節	条	枝番 工	種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	単位: mr	編章	節条	枝番 工 種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	単位:mm 摘 要		
10 3 1道 橋梁 路編 下部	7 R C 橋 脚	9	2 橋脚躯体工 (ラーメン式)	作里	基準高▽	***	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。 なお、従来管理のほかに「3次元計測	₩1 	10-3-7-9	10 3 6 梁下部	7 9 R C 橋	(ラーメン式)	基準高▽	カル 作 IIII ±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋 支承便覧」による。 なお、従来管理のほかに「3次元計測	w₁ 1	摘 安		
	工				厚さ t	-20	技術を用いた出来形管理要領(案)構造物工編(試行)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。(アンカーボルト孔の鉛直度を除く)	├			I		厚さ t	-20	- 技術を用いた出来形管理要領(案)」 で規定する出来形計測性能を有する機 器を用いることができる。(アンカー ボルト孔の鉛直度を除く) ただし、「3次元計測技術を用 いた 出来形管理要領(案)」に基づき出来	3 t			
					天端幅w ₁	-20		h t t t					天端幅 w ₁	-20	形管理を実施する場合は、同要領に規 定する計測精度・計測密度を満たす計 測方法により出来形管理を実施するこ とができる。	h t t t			
					數幅 \mathbf{w}_2	-20		情報中心問題離 Q 文明長					敷幅w2	-20		- 佐柳中心団圧μ 0 - 文間長			
					高さh	-50							高さ h	-50					
					長さℓ	-20	_	中心線の変位 (a1:橋軸直角方向)					長さℓ	-20		中心線の変位 (a 1:橋軸直角方向)			
					橋脚中心間距離0	±30							橋脚中心間距離0	±30	支承部アンカーボルトの箱抜き規格値 の平面位置は沓座の中心ではなく、ア ンカーボルトの箱抜きの中心で測定。 アンカーボルト孔の鉛直度は箱抜きを 橋軸方向、橋軸直角方向で十字に切っ た2隅で計測。				
					支間長及び 中心線の変位	±50							支間長及び 中心線の変位	±50					
				4	支 計画高 承 ^容 部	+10~-20							支 承 部 計画高 ア ン	+10~-20		**************************************			
				1 1 1 1	サア 大シ カ 平面位置 各 ボ 直 ル	±20							カー格ボ 平面位置 値ルト	±20		® 0 <u>®⊙0</u>			
					ト の アンカーボ・Mト孔の 鉛直度	1/50以下							が 抜 アンカーボルト き 孔の鉛直度 規	1/50以下		Political and the second and the sec			

	現行(令和3年版)													改定案(令和4年版)									
単位:mm														_						単位:mm			
編	章	節条	枝番 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇		摘要	編	章	- "	条 枝番		種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要			
10 道	4 鋼	5 10	2 支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1)	±5	支承全数を測定。 B:支承中心間隔(m)		1	10-4-5-10		4 鋼 橋	5 鋼 橋	10 2	支承工	生 承)	据付け高さ 注1)	±5	支承全数を測定。 B:支承中心間隔 (m)		10-4-5-10			
路編	橋上部	橋 架 設	(コム文承)	可動支承の移動 可能量 注2)		上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの				編	倫 上 部	微 架 設		(コム文)	承)	可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量以上	上部構造部材下面とゴム支承面との接 触面及びゴム支承と台座モルタルとの					
	i da	Ĩ		ナスム 〉 眼睛	コンクリート 鋼橋	接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300mm以下の場合						Ĩ				ナスよと問題	コンク リート橋 鋼橋	接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300mm以下の場合					
				支承中心間隔 (橋軸直角方向)	± (4+ ±5 0.5×(一は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。										支承中心間隔 (橋軸直角方向)	± (4+ 0.5×(B	は、水平面の高低差を1mm以下とする。					
				水 橋軸方向	2//	 注1) 先固定の場合は、支承上面で測										水橋軸方向	-2))	なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。					
				度 橋軸直角方向	1/300	定する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 δ を考										度 橋軸直角方向	1/300	注1) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。					
				可動支承の 機能確認 注3)	5	慮して、移動可能量が道路橋支承便覧 の規格値を満たすこをを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設 完了後に実施する。										可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5	た2) 可動支承の遊間 (La,Lb) を計測し、支承据付時のオフセット量 δを考慮して、移動可能量が道路橋支 承便覧の規格値を満たすことを確認す					
				可動支承の 移動量 注3)	温度変化に伴う。 動量計算値の 1/2以上											可動支承の 機能確認 注3)	温度変化に伴う 移動量計算値の 1/2以上	る。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設 完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。					
10 道 路	6トン	5 3 覆 工	覆エコンクリートエ	基準高▽(拱頂)	±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工40mに つき1ヶ所。 → (2) 厚さ		1	10-6-5-3	10 道 路	6トン	5 覆 工	3	覆エコン	クリートエ	基準高▽ (拱頂)	±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工40m につき1ヶ所。 (2) 厚さ		10-6-5-3			
編	ネル			幅w(全幅)	-50	(イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の終点を図に示す各点で測定。 中間部はコンクリート打設口で測定。 (ョ) コンクリート打設後、覆エコンク				編	ネル					幅w(全幅)	-50	(4) 早で (イ) コンクリート打設前の巻立空間 を1打設長の終点を図に示す各点で測	コンクリート打設前の巻立空間 打設長の終点を図に示す各点で測				
	N			高さh(内法)	-50						N A					高さh (内法)	-50	定。中間部はコンクリート打設口で測定。					
	A T M			厚さ t	設計値以上	リートについて1打設長の端面(施工 継手の位置)において、図に示す各点					A T M					厚さ t	設計値以上	(ロ) コンクリート打設後、覆エコン クリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各					
				延長L	_	の巻厚測定を行う。 (^) 検測孔による巻厚の測定は図の ─ (1)は40mに1ヶ所、(2)~(3)は100m	ı									延長L	_	点の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の (1) は40mに1ヶ所、(2) ~ (3) は	I				
						に1ヶ所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下の	t	ニコンクリート										100mに1ヶ所の割合で行う。	t Q _L (1) (3) 覆エコンクリート				
						ものについては、1トンネル当たり 2ヶ所以上の検測孔による測定を行	(4) (5)											なお、トンネル延長が100m以下のも のについては、1トンネル当たり2ヶ所 以上の検測孔による測定を行う。	(2) (5)				
						。 ただし、以下の場合には、左記の規 格値は適用除外とする。	(6)											ただし、以下の場合には、左記の規 格値は適用除外とする。	(6)				
						・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。	w											・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。	w				
						なお、変形が収束しているものに限 る。												なお、変形が収束しているものに限 る。					
						・異常土圧による覆工厚不足で、型枠 の据付け時には安定が確認されかつ別 途構造的に覆工の安全が確認されてい												・異常土圧による覆工厚不足で、型枠 の据付け時には安定が確認されかつ別 途構造的に覆工の安全が確認されてい					
						る場合。・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突												る場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突					
						出。 計測手法については、従来管理のほ かに「3次元計測技術を用いた出来形												出。 計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形					
						管理要領(案) トンネル工編 」で規定 する出来形計測性能を有する機器を用												管理要領(案)」で規定する出来形計 測性能を有する機器を用いることが出					
						いることが出来る。												来る。					

	現行(令和3年版)														改定案(令和4年版)										
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 相 個々の 測定値 (X)	格 値 測定値の平均 (X)	測定	基準	測	定簡所	摘 要	nm 編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 個々の測定値 (X)	格 値 測定値の平均 (X)	測 定 基 準	測定簡所	単位:mm 摘 要
道 路 編	14 1道路維持	4舗装工	5	1 4	刃削オーバーレイエ	厚さt (切削) 厚さt (オーバーレイ) 幅w 延長L	-7 	-2 -9 -25 100 3mプ υフィルメーター (σ)2. 4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下	厚さは40m毎に「現舗の差」「切削後の基準」「切削後の基準 基準高の差」で算出す 測定点は車道中心線、: する。 幅は、延長80m毎に1 加未満の合は、2ヶ) 断面状況で、間隔、測 来る。	高とオーバーレイ後の る。 車道端及びその中心 と ヶ所の割とし、延長8 所/施工箇所とする。		受験装 w 現舗装 w いては、平坦性の項目 が出来る。	10-14-4-5 -	10 道路編	道	舗装	5	1	切削オーバーレイエ	厚さt (切削) 厚さt (オーバーレ イ) 幅w 延長L		-2 -9 -25 -100 3mプロフィル メーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下	厚さは40m毎に「現舗装高と切削後の基準高 の差」「切削後の基準高とオーバーレイ後の 基準高の差」で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心と する。 軽は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、延長80m 無満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る 「3次元計測技術を用いた出来形管理要師 (案)」の規定による測点の管理方法を用い ることができる。	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	10-14-4-5
道 路 編	14道路維持	4舗装工	5	Œ	刃削オーバーレイ工 (面管理の場合) 厚さ t または標高較差 (切削) のみ	厚さ t (標高較差) (切削) 厚さ t (オーパーレイ) 幅 w 延長 L	_	-2 (2) -9 -25 100 3mプロフィルメーター (σ)2. 4mm以下 直読式(足付き) (σ)1. 75mm以下	1. 「3次元計測技術 領(案) 23面切削工編 を実施する場合に適用 2. 計測は切削面の全 設計面との厚さまたは 第出する。計測密度は 当たり)以上とする。 3. 厚さ t または標高 4. 厚さ は **・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	に基づき出来形管野 する。 面とし、すべての点で は標高較差(切削)を は点/㎡(平面投影面和 数差(切削)は、現意 との差で算出する。 は40m毎に「切削後の 多の基準高の差」で動 車道端及びその中心と こ1ヶ所の割とし、数 2ヶ所/施工箇所とで	里 で, 2. 度	受 現舗装 w いては、平坦性の項目 が出来る。	10-14-4-5	10 道路編	14道路維持	舗装	5		切削オーバーレイ工 (面管理の場合) 厚さtまたは標高較差 (切削) のみ	厚さ t (標高較差) (切削) 厚さ t (オーバーレ イ) 幅w 延長 L		-9 -25 -100 3mプロフィル メーター (o) 2. 4mm以下 直読式(足付き)	1. 「3次元計測技術を用いた出来形管理要 領(案)」に基づき出来形管理を実施する場 合に適用する。 2. 計測は切削面の全面とし、すべての点で 設計面との厚さ t または標高較差(切削)を 第出する。 3. 厚さ t または標高較差(切削)は、現舗 当たり)以上とする。 3. 厚さ t または標高較差(切削)は、現舗 当たり)以上とする。 4. 厚さ(オーバーレイ)は40m毎に「切削 で算出する。 初定点は車道中心線、車道端及びその中心と する。 5. 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、延 大阪の無本満の場合は、2ヶ所/施工箇所とす る。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。	(E) (T) (T) (T) (T) (T) (T) (T) (T) (T) (T	10-14-4-5